

阿南工業高等専門学校					一般教養								開講年度		平成27年度 (2015年度)												
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	基礎数学 1	0101	履修単位	4	4	4																田上 隆徳				
一般	必修	数学A	0102	履修単位	2	2	2																田上 隆徳				
一般	必修	英語 1	0103	履修単位	2	2																	谷中 俊裕				
一般	選択	保健	0104	履修単位	1	2																	佐竹 昌之				
一般	選択	体育	0105	履修単位	2	2																	新井 修				
一般	選択	美術・デザイン	0106	履修単位	2	2																	上月 佳代				
一般	必修	日本語総合	0107	履修単位	2	2																	錦織 浩文				
一般	必修	倫理	0108	履修単位	2	2																	藤居 岳人				
一般	必修	理科総合	0109	履修単位	4	4																	平山 基				
一般	必修	英語A	0110	履修単位	2	2																	藤井 浩美				
一般	必修	基礎数学 2	0201	履修単位	4					4	4												西森 康人, 川崎 敏和, 櫛田 雅弘, 田上 隆徳				
一般	必修	数学B	0202	履修単位	2					2	2												櫛田 雅弘, 山田 耕太郎				
一般	必修	日本語総合	0203	履修単位	2					2	2												坪井 泰士				
一般	必修	英語 2	0204	履修単位	2					2	2												藤井 浩美				
一般	必修	英語B	0205	履修単位	2					2	2												城本 春佳				
一般	必修	英会話	0206	履修単位	2					2	2												プロフントクリストファー				
一般	必修	物理	0207	履修単位	2					2	2												園田 昭彦, 平山 基				
一般	必修	物理実験・演習	0208	履修単位	1					2													園田 昭彦, 平山 基				
一般	必修	化学	0209	履修単位	2					2	2												山田 洋平, 園田 昭彦				
一般	必修	世界史	0210	履修単位	2					2	2												濱田 香織				
一般	必修	政治経済	0211	履修単位	2					2	2												今田 浩之				
一般	選択	体育	0212	履修単位	2					2	2												新井 修, 中島 一				
一般	必修	微分積分	0301	履修単位	2							2	2										田上 隆徳, 櫛田 雅弘				
一般	必修	数学C	0302	履修単位	2							2	2										川崎 敏和, 宮本 陽生				
一般	必修	日本語総合	0303	履修単位	1							2											坪井 泰士, 錦織 浩文				
一般	必修	英語 3	0304	履修単位	4							4	4										林田 栄治, 三宅 恵美, 谷川 奈緒子				

一般	必修	英作文	0305	履修単位	2																		
----	----	-----	------	------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	基礎数学 1	
科目基礎情報							
科目番号	0101			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教養			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	4		
教科書/教材	「高等学校 数学Ⅰ、数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅰ + A、Ⅱ + B」、「はぎ取り式練習ドリル 数学Ⅰ、数学Ⅱ」(数研出版)						
担当教員	田上 隆徳						
到達目標							
1. 多項式の基本的な計算ができる。 2. 2次関数について理解し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できる。 3. 三角比の意味について理解し、具体的な事象の考察に活用できる。 4. 三角関数について理解し、その計算ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		和や積の組み合わせを工夫して、式の展開や因数分解を行うことができる。		多項式の基本的な計算ができる。		多項式の基本的な計算ができない。	
評価項目2		具体的な事象に対し、2次方程式や2次不等式を用いて、問題を解決することができる。		2次関数について理解し、2次方程式や2次不等式を解くことができる。		基本的な2次方程式や2次不等式を解くことができない。	
評価項目3		具体的な事象に対し、三角比および正弦定理・余弦定理を用いて、問題を解決することができる。		三角比の意味について理解し、基本的な三角比および正弦定理・余弦定理を用いた計算ができる。		基本的な三角比を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		数学は工業高専において根幹となる科目である。基礎数学1では、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及び三角関数について基礎的な知識と技能を習得する。また、それらを的確に活用する能力を養い、数学的な見方や考え方を身に付ける。					
授業の進め方・方法							
注意点		1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立する。 2. 数学力の定着には、日々の予習復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	基礎学力試験				
		2週	方程式と不等式		整式の加法、減法、乗法ができる。		
		3週	方程式と不等式		整式の加法、減法、乗法ができる。		
		4週	方程式と不等式		因数分解ができる。		
		5週	方程式と不等式		因数分解ができる。		
		6週	方程式と不等式		根号を含む計算ができる。		
		7週	方程式と不等式		根号を含む計算ができる。		
		8週	方程式と不等式		1次不等式を解くことができる。		
	2ndQ	9週	前期中間試験				
		10週	2次関数		2次関数の最大・最小を求めることができる。		
		11週	2次関数		2次関数の最大・最小を求めることができる。		
		12週	2次関数		2次方程式を解くことができる。		
		13週	2次関数		2次方程式を解くことができる。		
		14週	2次関数		2次不等式を解くことができる。		
		15週	2次関数		2次不等式を解くことができる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	図形と計量		正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。		
		2週	図形と計量		正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。		
		3週	図形と計量		正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。		
		4週	図形と計量		正弦定理・余弦定理を理解している。		
		5週	図形と計量		正弦定理・余弦定理を理解している。		
		6週	図形と計量		正弦定理・余弦定理を理解している。		
		7週	図形と計量		三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。		
		8週	図形と計量		三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。		
	4thQ	9週	後期中間試験				
		10週	三角関数		弧度法および一般角の三角関数について理解している。		
		11週	三角関数		弧度法および一般角の三角関数について理解している。		

		12週	三角関数	三角関数の性質とグラフについて理解している。
		13週	三角関数	三角関数の性質とグラフについて理解している。
		14週	三角関数	加法定理を理解している。
		15週	三角関数	加法定理を理解している。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語 1
科目基礎情報						
科目番号	0103			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	POLESTAR English Communication I, 数研出版, 同準処ナビゲーションノート, ワークブック Standard フェイバリット英単語・熟語<テーマ別>コーパス 3000, 東京書籍/英語Aの文法参考書					
担当教員	谷中 俊裕					
到達目標						
1. 予習復習を含む着実な英語の学習習慣を身に付ける。 2. 教科書の読み物を, 100語~200語のパートごとに, 重要語句と重要文法事項を意識しながら正確に理解できる。 3. 教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせて英語らしい発音でシャドウイングできる。 4. 教科書の読み物で学習した重要語句と語彙集を用いながら, 数文の平易な英文で自分の意見を書ける。 5. 教科書で学習した題材について, 学習した語彙を用いながら, 数文の平易な英文で自分の意見を書ける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
到達目標1	予習復習に加え, 自分なりの目標も決めて英語学習を着実に進める習慣が身に付いている。		予習復習中心に着実な英語の学習習慣が身に付いている。		英語学習は予習復習も十分にできなかった。	
到達目標2	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を, パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文について, 理解できないところが多く残っている。	
到達目標3	教科書の読物をややゆっくりめのスピードの音声に合わせ十分英語らしい発音でシャドウイングできる。		教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせ英語として通じるレベルの発音でシャドウイングできる。		教科書の読み物をややゆっくりめのスピードでもシャドウイングできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して, 正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に, 教科書の音読を通して英語の正確な発音と自然なリズムを身に付ける。さらに, 学習した題材について, 習得した語彙も用いながら自分の意見を平易な英文で書く練習を通して, 英作文力を高める。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業には必ず英和辞典(電子辞書可)を持参すること。 2. オリエンテーションで支持するやり方で, 十分予習復習と語彙学習を行うこと。 3. 特別課題として, 長期休暇中の宿題を課します。 4. 積極的に英語の資格, 数文の平易な英文で自分の意見を書ける。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		学習方法についての理解	
		2週	Lesson1~Lesson3		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		3週	Lesson1~Lesson3		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		4週	Lesson1~Lesson3		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		5週	Lesson1~Lesson3		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		6週	Lesson1~Lesson3		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		7週	Lesson1~Lesson3		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		8週	[前期中間試験]			
	2ndQ	9週	Lesson3~Lesson5		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		10週	Lesson3~Lesson5		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		11週	Lesson3~Lesson5		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		12週	Lesson3~Lesson5		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		13週	Lesson3~Lesson5		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		14週	Lesson3~Lesson5		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		15週	[前期末試験]			
		16週				
後期	3rdQ	1週	Lesson6~Lesson8		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		2週	Lesson6~Lesson8		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	
		3週	Lesson6~Lesson8		到達目標の1~5について, 全Lessonを題材に学習します。	

		4週	Lesson6～Lesson8	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		5週	Lesson6～Lesson8	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		6週	Lesson6～Lesson8	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		7週	Lesson6～Lesson8	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		8週	[後期中間試験]	
	4thQ	9週	Lesson9～Lesson10	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		10週	Lesson9～Lesson10	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		11週	Lesson9～Lesson10	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		12週	Lesson9～Lesson10	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		13週	Lesson9～Lesson10	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		14週	Lesson9～Lesson10	到達目標の1～5について、全Lessonを題材に学習します。
		15週	[後期末試験]	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	25	15	100
基礎的能力	60	0	0	0	25	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校	開講年度	平成27年度 (2015年度)	授業科目	保健
科目基礎情報				
科目番号	0104	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	現代高等保健体育、大修館書店 /なし			
担当教員	佐竹 昌之			

到達目標

1. 生活習慣病や感染症、薬物乱用、交通安全などの現代の健康問題とその対策について説明できる。
2. 思春期の健康に関すること、健康を支えている保健・医療の仕組みについて説明し活用できる。
3. 環境汚染による健康被害を理解し、環境保護について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1		生活習慣病や感染症、薬物乱用、交通安全などの現代の健康問題とその対策について説明できる。	
評価項目2		思春期の健康に関すること、健康を支えている保健・医療の仕組みについて説明し活用できる。	
評価項目3		環境汚染による健康被害を理解し、環境保護について説明できる。	

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	人間が成長発達しながら生きていくことを理解し、生活習慣病の知識を身につけ生涯を通じて健康を保持増進できる能力を養う。
授業の進め方・方法	
注意点	生涯を通じて健康生活を保持促進するためには、健康についての知識が欠かせません。健康についての知識を高め、現代社会を生き抜く知恵を学んでください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	生活習慣病とその予防	生活習慣病について説明でき、より良い生活習慣の重要性を認識できる。
		2週	食事・運動・休養と健康	健康的な食生活、健康のための運動、より良い休養について説明できる。
		3週	喫煙・飲酒と健康	喫煙や飲酒を他人事でなく自分たちに
		4週	薬物乱用と健康	薬物乱用が心身の健康に及ぼす悪影響を説明できる。
		5週	感染症とその予防	性感染症やエイズについて基礎知識を学び予防対策について説明できる。
		6週	交通事故の現状とその要因	交通事故の現状と要因について説明できる。
		7週	応急手当と心肺蘇生法	応急手当や心肺蘇生法、熱中症対策についての基本的な手順を説明できる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	思春期と健康	思春期の特徴が説明でき、異性を尊重する態度の必要性について説明できる。
		10週	結婚生活と健康	健康的な結婚生活、受精・妊娠・出産の過程を理解し、説明できる。
		11週	家族計画と人工妊娠中絶	家屋計画の意義や方法について理解し、説明できる。
		12週	医療制度・医療品と健康	さまざまな医療機関や医療費が支払われる仕組みについて説明できる。
		13週	環境汚染と健康	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染と健康被害について説明できる。
		14週	環境衛生活動のしくみ	ゴミ処理と上下水道の整備の現状を理解し、問題点や対策について説明できる。
		15週	食品衛生活動のしくみ	食品の安全を守るために行政や生産者が果たす役割について説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0105		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	なし/なし					
担当教員	新井 修					
到達目標						
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 運動・活動中は安全に留意して行動できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につける事ができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、安全に留意して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。					
授業の進め方・方法	特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。					
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	バレーボール		バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	バレーボール		バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		3週	バレーボール		サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		4週	バレーボール		サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		5週	バレーボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	バレーボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	バスケットボール		バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		8週	バスケットボール		バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
	2ndQ	9週	バスケットボール		パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		10週	バスケットボール		パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		11週	バスケットボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	バスケットボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	バドミントン		バドミンツンのルールを理解し説明できる。	
		14週	バドミントン		バドミンツンのルールを理解し説明できる。	
		15週	バドミントン		サービス、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		16週	バドミントン		サービス、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
後期	3rdQ	1週	バドミントン		サービス、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		2週	バドミントン		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		3週	バドミントン		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	卓球		卓球のルールを理解し説明できる。	
		5週	卓球		卓球のルールを理解し説明できる。	
		6週	卓球		サービス、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		7週	卓球		サービス、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		8週	卓球		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	4thQ	9週	卓球		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	卓球		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	体育大会（前期・後期）		参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		12週	体育大会（前期・後期）		参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	

		13週	体育大会（前期・後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14週	体育大会（前期・後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会（前期・後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週	体育大会（前期・後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	美術・デザイン	
科目基礎情報							
科目番号	0106			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	美術 1 (光村図書) /デザイン基礎 (ダヴィッド社)						
担当教員	上月 佳代						
到達目標							
1. 観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。 2. 発想、構想、着想の表現ができる。 3. 材料、用具、技法の理解ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1		観察力、主題の表現、方法を工夫し、独自の世界観を作り出すことができる。		観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。		観察力、主題の表現、方法を工夫することができない。	
到達目標2		発想、構想、着想の表現ができ、独自の世界観を作り出すことができる。		発想、構想、着想の表現ができる。		発想、構想、着想の表現ができない。	
到達目標3		材料、用具、技法の理解ができ、的確に扱うことができる。		材料、用具、技法の理解ができる。		材料、用具、技法の理解ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		美術・デザインの専門分野で、創造活動を通して、人間・社会・自然で美的体験を豊かにし、美意識を深め、感性やアイデアを表現する。また、情報社会の中で、生活や文化・環境を思考しながら、工学デザインへの一歩として理解し、個性ある能力を高める。					
授業の進め方・方法							
注意点		美術は自己をしっかりと見つめ、自分を表現する。身近な生活の中造形に興味を持ち、楽しむ。与えられた課題は最後まで取り組み、根気や忍耐力を発揮すること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1 美術・デザインの概念		美術・デザインの意識を理解して美術に取り組む心構えができる。		
		2週	2 色彩 (色相環・三属性)		色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。		
		3週	2 色彩 (色相環・三属性)		色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。		
		4週	2 色彩 (色相環・三属性)		色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。		
		5週	3 ポスターデザイン		ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。		
		6週	3 ポスターデザイン		ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。		
		7週	3 ポスターデザイン		ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。		
		8週	3 ポスターデザイン		ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。		
	2ndQ	9週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		10週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		11週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		12週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		13週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		14週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		15週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		16週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
後期	3rdQ	1週	4 平面構成		バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。		
		2週	5 工業デザイン (立体)		機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。		
		3週	5 工業デザイン (立体)		機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。		
		4週	5 工業デザイン (立体)		機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。		
		5週	5 工業デザイン (立体)		機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。		

		6週	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		7週	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		8週	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	4thQ	9週	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		10週	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		11週	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		12週	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		13週	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		14週	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		15週	8 美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。
		16週	8 美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	0	0	70	0	30	100
基礎的能力	0	0	70	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	日本語総合
科目基礎情報						
科目番号	0107		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年		1	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	高専日本語アビリティ I (山田印刷) /級別漢字学習7級~2級 (東京法令出版)					
担当教員	錦織 浩文					
到達目標						
1. 漢文に触れ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深め、親しむことができる。 2. 日本語で情報を収集・選択・構成し、論理的にコミュニケーションをとることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
到達目標1	漢文についてリズムや韻を味わい、大意を踏まえて暗唱することができる。		漢文についてリズムや韻を味わい、暗唱することができる。		漢文についてリズムや韻を味わい、大意を踏まえて暗唱することに欠ける。	
到達目標2	表現スキルを効果的に用い、論理構成を意識した文章表現、及び発表ができる。		表現スキルを用い、論理構成を意識した文章表現、及び発表ができる。		表現スキルを用い、論理構成を意識した文章表現、及び発表に欠ける。	
学科の到達目標項目との関係						
本科教育目標 (A)						
教育方法等						
概要	日本語の表現に関する基礎知識を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。 授業内容は、文章表現に関する学習・練習を基本とする。また、表現力・理解力を育むために漢字学習を行う。					
授業の進め方・方法						
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（漫画、雑誌、テキストを除く）。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス		シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2週	文書作成（履歴書）		適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成することができる。	
		3週	文書作成（履歴書）		適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成することができる。	
		4週	文書作成（履歴書）		適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成することができる。	
		5週	敬語		尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語を使用することができる。	
		6週	敬語		尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語を使用することができる。	
		7週	敬語		尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語を使用することができる。	
	2ndQ	8週	前期中間試験			
		9週	詩歌作成（俳句）		俳句の形式に則り、俳句を作成することができる。	
		10週	詩歌作成（俳句）		俳句の形式に則り、俳句を作成することができる。	
		11週	文書作成（通信文）		通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		12週	文書作成（通信文）		通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		13週	文書作成（通信文）		通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		14週	詩歌作成（短歌）		短歌の形式に則り、短歌を作成することができる。	
		15週	詩歌作成（短歌）		短歌の形式に則り、短歌を作成することができる。	
後期	3rdQ	1週	発表（POPを用いた本の紹介）		POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		2週	発表（POPを用いた本の紹介）		POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		3週	発表（POPを用いた本の紹介）		POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		4週	発表（POPを用いた本の紹介）		POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		5週	文章作成（小論文）		問題提起、予想反論と反証を含む四段構成の小論文を作成することができる。	
		6週	文章作成（小論文）		問題提起、予想反論と反証を含む四段構成の小論文を作成することができる。	
		7週	文章作成（小論文）		問題提起、予想反論と反証を含む四段構成の小論文を作成することができる。	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	文章作成（超短文）		テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	
		10週	文章作成（超短文）		テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	

		11週	文章作成（超短文）	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。
		12週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		13週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		14週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		15週	漢文（漢詩・格言）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	5	0	0	20	5	100
基礎的能力	70	5	0	0	20	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	倫理
科目基礎情報						
科目番号	0108		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高等学校倫理(第一学習社)/講義中に、適宜、紹介します。					
担当教員	藤居 岳人					
到達目標						
1. 日本とは異なった外国文化等、倫理・思想に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 「ものづくり」に関する調査を通して、技術者と倫理との関係について基礎的な内容を説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	倫理・思想に関する基礎的な知識について詳細に説明できる。		倫理・思想に関する基礎的な知識について、その概要を説明できる。		倫理・思想に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。	
評価項目2	調査レポートの論旨が明快で、その内容について詳細に説明できる。		調査レポートがまとまっており、その内容について十分に説明できる。		調査レポートの論旨が明快でなく、その内容について十分に説明できない。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
本科教育目標 (A)						
教育方法等						
概要	我々人間は社会の中で生活している関係上、自己実現を果たしながら、なおかつ他者とうまく折り合いをつけてゆく必要があります。自己と他者との間の、共感できる点や異質な点について自分なりに考えるところに「倫理」が生まれます。本講義では、自己と他者との関係について自分で考えるための材料を提供してゆきたいと思います。また、「ものづくり」に関する調査を通して、技術者としての基本的倫理観について考えてもらいたいと思います。					
授業の進め方・方法						
注意点	1.成績評価とも関連しますが、講義で述べたことについて定期試験・中間試験で確認する方針なので、「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います。 2.「ものづくり」に関する調査は、前期・後期にそれぞれ実施します（時期は適宜）。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「倫理」とは？		本来の「倫理」について、説明できる。	
		2週	ギリシアの思想		自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	ギリシアの思想		自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	ギリシアの思想		自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		5週	ギリシアの思想		プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		6週	ギリシアの思想		プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		7週	ギリシアの思想		プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		8週	【前期中間試験】			
	2ndQ	9週	「ものづくり」に関する調査1		調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		10週	「ものづくり」に関する調査1		調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		11週	「ものづくり」に関する調査1		調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		12週	キリスト教		ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		13週	キリスト教		ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		14週	キリスト教		イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		15週	キリスト教		イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	イスラム教		イスラム文化と現代の関係について、その概要を説明できる。	
		2週	イスラム教		イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	イスラム教		イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	インドの思想		インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	
		5週	インドの思想		インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	
		6週	インドの思想		ゴータマの思想について、その概要を説明できる。	

		7週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。
		8週	【後期中間試験】	
	4thQ	9週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
		10週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
		11週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
		12週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
		13週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
		14週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
		15週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	理科総合
科目基礎情報						
科目番号	0109		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 4	
開設学科	一般教養		対象学年		1	
開設期	通年		週時間数		4	
教科書/教材	総合物理1（数研）、科学基礎（第一学習者）、地学基礎（数研）、生物基礎（啓林館）					
担当教員	平山 基					
到達目標						
1. 工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。 2. 物理学の基礎事項について学び、ニュートンの3法則を用いた計算を行うことができる。 3. 身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できる。 4. 地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動について説明できる。 5. 生物の進化や多様性・生態系について理解するとともに、地球環境問題の原因や保全対策について説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	工学、自然科学で対象とする量や単位について、原理を理解し、基本的な取り扱いができる。		工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。		工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができない。	
評価項目2	物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた定式化および計算を行うことができる。		物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた初歩的な計算を行うことができる。		物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた初歩的な計算を行うことができない。	
評価項目3	身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などを説明できる。		身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できる。		身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	理科の総合的学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理・科学・生物・地学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	有効数字		数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		2週	有効数字		数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		3週	数値と単位		数値の意味を理解し、種々の物理量に単位を付けることができる。	
		4週	物体の運動		物体の位置・速度・加速度の関係を定式化でき、それぞれの量を計算できる。	
		5週	物体の運動		物体の位置・速度・加速度の関係を定式化でき、それぞれの量を計算できる。	
		6週	物体の運動		物体の位置・速度・加速度の関係を定式化でき、それぞれの量を計算できる。	
		7週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		8週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
	2ndQ	9週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		10週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		11週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		12週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		13週	運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度を計算できる。	
		14週	宇宙と地球		地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。	
		15週	大気と海洋		地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	科学と人間生活		科学が物質を対象とする科学であることが理解できる。	
		2週	物質の構成		原子の構造及び電子配置と周期律との関係が理解でき、物質について微視的な見方ができる。	
		3週	物質の構成		原子の構造及び電子配置と周期律との関係が理解でき、物質について微視的な見方ができる。	
		4週	物質の変化		科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。	

		5週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
		6週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
		7週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
		8週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
	4thQ	9週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
		10週	物質の変化	科学反応の量的関係が理解でき、日常生活と関連付けて考察できる。
		11週	生物進化と生物多様性	生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる。
		12週	人間活動と地球環境の保全	生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。
		13週	人間活動と地球環境の保全	生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。
		14週	[定期試験および返却]	
		15週	[定期試験および返却]	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	50	0	0	0	20	30	100	
基礎的能力	40	0	0	0	20	0	60	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	10	0	0	0	0	30	40	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	英語A
科目基礎情報						
科目番号	0110		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高校総合英語 Harvest 3rd Edition アプローチノート付、暗証例文付 鈴木希明 桐原書店/Sonic Reading Stage1 のとう修 桐原書店					
担当教員	藤井 浩美					
到達目標						
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の概念を理解できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の知識を応用できる。 3. 文全体の意味を把握しながら、必要な情報を見つけることのできる速読力を身に着ける。 4. 教科書で学習した語彙・熟語を理解し、運用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解し、説明できる。		教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解できる。		教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解することが困難である。	
評価項目2	教科書などの教材で学習した文法知識を応用して、100語程度の英作文ができるようになる。		教科書などの教材で学習した文法知識を応用して、1文単位で簡単な英作文ができる容認ある。		教科書などの教材で学習した文法知識を応用することが困難である。	
評価項目3	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだし、要点をまとめることができる。		300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだせる。		300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだすことが困難である。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英文法の理解を通じて英語基礎力を固め、英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に伸ばす。また、速読演習を通して読解力を向上させるとともに語彙力を増強させる。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. プリント類やノートを日頃からキチンと整理しておくこと。（専用ファイルを用意することが望ましい） 2. 授業には必ず辞書（電子辞書可）を持ってくること。 3. 提出物の期限は厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容及び学習方法を理解する。	
		2週	英語の語順		各文法項目の概念を理解する。	
		3週	英語の語順		各文法項目の概念を理解する。	
		4週	時制		各文法項目の概念を理解する。	
		5週	時制		各文法項目の概念を理解する。	
		6週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		7週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	完了形		各文法項目の概念を理解する。	
		10週	完了形		各文法項目の概念を理解する。	
		11週	助動詞		各文法項目の概念を理解する。	
		12週	助動詞		各文法項目の概念を理解する。	
		13週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		14週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		15週	前期末試験			
		16週				
後期	3rdQ	1週	受動態		各文法項目の概念を理解する。	
		2週	受動態		各文法項目の概念を理解する。	
		3週	不定詞		各文法項目の概念を理解する。	
		4週	不定詞		各文法項目の概念を理解する。	
		5週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		6週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		7週	後期中間試験			
		8週	動名詞		各文法項目の概念を理解する。	
	4thQ	9週	動名詞		各文法項目の概念を理解する。	
		10週	分詞		各文法項目の概念を理解する。	
		11週	分詞		各文法項目の概念を理解する。	
		12週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		13週	Sonic Reading Stage1		英文速読を通して速読力を強化する。	
		14週	学年末試験			
		15週	答案返却			
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	基礎数学 2	
科目基礎情報							
科目番号	0201		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 4		
開設学科	一般教養		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		前期:4 後期:4		
教科書/教材	「高等学校 数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程チャート式基礎と演習 Ⅱ + B」、微分積分-改- (裳華房)、「はぎ取り式練習ドリル Ⅱ、Ⅲ」(数研出版)						
担当教員	西森 康人,川崎 敏和,櫛田 雅弘,田上 隆徳						
到達目標							
1. 整式の四則演算ができる。 2. 複素数の概念を理解し、その計算ができる。 3. 2次方程式や高次方程式を解くことができる。 4. 微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。また、増減表からグラフ描画と極値を求めることができる。 5. 不定積分と定積分の計算が確実にできる。また定積分を使って面積を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	3次式以上の複雑な整式の四則演算ができる。		整式の四則演算ができる。		整式の四則演算ができない。		
評価項目2	複素数の複雑な計算ができる。		複素数の概念を理解し、その計算ができる。		複素数の概念を理解できない。また、複素数の計算ができない。		
評価項目3	複雑な2次方程式や高次方程式を解くことができる。		2次方程式や高次方程式を解くことができる。		2次方程式や高次方程式を解くことができない。		
評価項目4	複雑な合成関数の極限や微分を計算することができる。		極限と微分の計算が確実にできる。		極限や微分の計算ができない。		
評価項目5	方程式の解の個数を、増減表を用いて特定することができる。		微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。増減表をもとにグラフが作図できる。		微分を使って接線の方程式を求めることができない。増減表を作ることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、高専数学での最重要事項である各種関数の取り扱い方、方程式の解き方、微分と積分の計算とその応用方法について学習する。						
授業の進め方・方法	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。						
注意点	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	3次式の展開と因数分解		3次の展開公式を使って、式を展開することができる。また、3次式の因数分解の公式を使って因数分解できる。		
		2週	二項定理とパスカルの三角形		二項定理を使って展開できる。また、パスカルの三角形を書くことができ、対応する多項式の係数を求めることができる。		
		3週	整式の割り算と分数式の四則演算		整式の割り算と、分数式の四則演算ができる。		
		4週	恒等式		恒等式を理解できる。また、恒等式の両辺を比較して係数を求めることができる。		
		5週	複素数とその基本性質およびその四則演算		複素数を理解できる。また、その四則演算ができる。		
		6週	2次方程式の解の公式と判別式		2次方程式の解の公式を使って、虚数解を求めることができる。また、判別式を計算し、2次方程式の解の種類を判別することができる。		
		7週	剰余の定理と因数定理		剰余の定理を使って、整式を整式で割ったときの余りを求めることができる。また、因数定理を使って因数分解することができる。		
		8週	高次方程式の因数分解		因数定理を使って高次方程式を因数分解し、方程式の解を求めることができる。		
	2ndQ	9週	前期中間試験				
		10週	関数の極限と微分係数		関数の極限を求めることができる。また平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。		
		11週	簡単な関数の微分		1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の微分ができる。またそれらのグラフ上の接線を求めることができる。		
		12週	関数の値の変化		関数の増減表を書くことができる。これを利用して極大値や極小値を求めることができ、関数の概形を描くことができる。		
		13週	不定積分		1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の不定積分ができる。		
		14週	定積分		1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の定積分ができる。		
		15週	定積分と面積		定積分を使って、二つの曲線の間の面積を求めることができる。		
		16週	期末試験返却				

後期	3rdQ	1週	分数関数の極限	収束、発散、無限大の概念を理解できる。また、分数式の極限を求めることができる。
		2週	指数関数を含む分数関数の極限	指数関数の含む分数関数の極限を求めることができる。
		3週	積の微分	関数 f と関数 g の積である関数 fg の微分ができる。
		4週	商の微分	関数 f と関数 g の商である関数 f/g の微分ができる。
		5週	合成関数の微分	関数 f と関数 g の合成関数である関数 $f \circ g$ の微分ができる。
		6週	やや複雑な関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な関数を微分することができる。
		7週	三角関数の極限	三角関数の極限を計算することができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	三角関数の微分	三角関数の微分ができる。
		10週	三角関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な三角関数の微分ができる。
		11週	対数関数・指数関数	自然対数の基本的な計算ができる。
		12週	対数関数の微分	対数関数の微分ができる。
		13週	対数関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な三角関数の微分ができる。
		14週	指数関数の微分	指数関数の微分ができる。
		15週	指数関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、指数関数の微分ができる。
		16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	0202		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	「高等学校 数学B」岡部恒治ほか著 数研出版/「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅱ + B」					
担当教員	櫛田 雅弘,山田 耕太郎					
到達目標						
1.ベクトルの基本的な計算ができる。 2.平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 3.平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。 4.平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。 5.等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、Σの計算ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	やや複雑なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができない。	
評価項目2	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、複雑な計算ができる。		平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。		平面または空間ベクトルの成分表示ができない、または、基本的な計算ができない。	
評価項目3	平面および空間ベクトルの内積を求めることができ、内積を用いてベクトルの大きさが計算できる。		平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。		平面または空間ベクトルの内積を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高校において根幹となる科目である。本授業では、平面および空間のベクトルの概念を学習し、基本的なベクトルの計算方法を習得する。数列では規則に従って並ぶ数やその和、および漸化式概念を学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点	1. 授業に集中し、効果的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ベクトルの意味		平面上のベクトルの概念を理解するとともに、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解する。	
		2週	ベクトルの演算		平面上のベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	
		3週	ベクトルの平行とベクトルの分解		1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現して利用できる。有向線分表示されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。	
		4週	ベクトルの成分		平面上のベクトルが2つの実数の組として表されることを理解し、大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
		5週	ベクトルの内積(1)		ベクトルの内積を求めることができ、ベクトルのなす角を求めることができる。	
		6週	ベクトルの内積(2)		ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。	
		7週	ベクトルと平面図形		位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	平面上の直線(1)		平面上の直線の方程式を求めることができる。	
		10週	平面上の直線(2)		ベクトルを用いて平面上の直線の方程式を求めることができる。	
		11週	円		平面上の円の方程式を求めることができる。	
		12週	空間の座標		座標空間を理解し、点の座標、2点間の距離を求めることができる。	
		13週	空間のベクトル		成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
		14週	空間のベクトルの内積		空間ベクトルの内積を求めることができ、平行・垂直条件を利用することができる。	
		15週	演習			
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	ベクトルと空間図形		位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。	
		2週	空間内の直線		空間内の直線の方程式を求めることができる。	
		3週	空間内の平面		空間内の平面の方程式を求めることができる。	
		4週	球		球の方程式を求めることができる。	
		5週	数列と一般項		数列の定義、表記について理解し、数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。	
		6週	等差数列		初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	
		7週	等差数列の和		等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。	

		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	等比数列	初項と公比を文字で表して，条件から数列の一般項を決定できる。
		10週	等比数列の和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	和の記号 Σ	記号 Σ の意味と性質を理解し，数列の和が求められる。
		12週	総和の計算	第k項をkの式で表して，初項から第n項までの和が求められる。
		13週	いろいろな数列の和	等比数列の和の公式を，適切に利用して数列の和が求められる。
		14週	漸化式	漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。
		15週	等差数列・等比数列の漸化式	等差数列・等比数列の漸化式から一般項を求めることができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	90	90
基礎的能力	90	90
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	日本語総合
科目基礎情報						
科目番号	0203		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ（阿南高専）／級別漢字学習帳7級～2級（東京法令出版）					
担当教員	坪井 泰士					
到達目標						
1.構成や表現技術を活用し、意見を述べることができる。 2.鑑賞の技法を活用し、文学的文章を鑑賞できる。 3.論理性と効果を意識した口頭表現ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	構成や表現技術を活用し、論理的に意見に述べられる。		構成や表現技術を活用し、意見を述べられる。		論理的文章の構成や表現技術を活用して意見を述べられない。	
到達目標2	鑑賞技法を活用し、多角的に文学的文章を鑑賞できる。		鑑賞技法を活用し、文学的文章を鑑賞できる。		鑑賞技法を活用して文学的文章を鑑賞できない。	
到達目標3	論理的、かつ、効果的に口頭表現できる。		論理性と効果を意識し、口頭表現できる。		論理性と効果を意識して口頭表現できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本語の表現に関する基礎知識・技術を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業は、文章表現および口頭表現に関する学習・練習を基本とする。また、小説・詩の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、評論読解や漢字学習により理解や表現の力を培う。					
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（漫画、雑誌、テキストを除く）。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス		シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2週	表現法①		文末表現、修辞法（比喩的修辞）を活用して、表現できる。	
		3週	表現法②		修辞法（比喩的修辞以外のもの）を活用して、表現できる。	
		4週	表現法③		設疑法、反語法を活用して、表現できる。	
		5週	小説の鑑賞①		鑑賞技法（著者背景）を活用して、『山月記』を、鑑賞できる。	
		6週	小説の鑑賞②		鑑賞技法（作品背景、主人公の言動・心理）を活用して、『山月記』を、鑑賞できる。	
		7週	小説の鑑賞③		鑑賞技法（構成；対比・展開、背景描写）を活用して、『山月記』を、鑑賞できる。	
	8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	文章表現①		読書感想文のテンプレートについて、論文との違いを説明できる。	
		10週	文章表現②		既習の表現法を活用して、読書感想文を執筆できる。	
		11週	文章表現③		既習の表現法を活用して、読書感想文を執筆し、相互に助言できる。	
		12週	文章表現④		既習の表現法を活用して、読書感想文を執筆し、助言に対応してよりよい表現をできる。	
		13週	表現法④		構成法（3段構成）と接続の言葉を活用して、表現できる。	
		14週	表現法⑤		設疑法、反語法や文末表現等の表現法に留意して表現し、相互に助言できる。	
		15週	表現法⑥		設疑法、反語法や文末表現等の表現法に留意して表現し、助言に対応してよりよい表現をできる。	
16週		答案返却		学習のまとめ		
後期	3rdQ	1週	評論読解①		評論の構造を理解し、読解の方法を説明できる。	
		2週	評論読解②		評論（時事ニュース）を読解し、要約および意見提示できる。	
		3週	評論読解③		評論（時事ニュース）を読解し、要約および意見提示できる。	
		4週	評論読解④		評論（時事ニュース）を読解し、要約および意見提示できる。	
		5週	スピーチ①		文章表現との違いに留意し、スピーチ技法を説明し、構成シートを作成できる。	
		6週	スピーチ②		練習スピーチによりスピーチskillを理解し、改善のポイントを説明できる。	
		7週	スピーチ③		スピーチskillを適切に活用し、効果的にスピーチできる。	
		8週	中間試験			

	4thQ	9週	詩の鑑賞①	鑑賞技法（小説との共通点、違い）を活用して『初恋』を鑑賞できる。
		10週	詩の鑑賞②	近代文学史概観を理解し、詩を鑑賞できる。
		11週	詩の鑑賞③	既習の表現法および詩特有の表現法をふまえ、詩を鑑賞できる。
		12週	詩の鑑賞④	既習の表現法および詩特有の表現法をふまえ、詩を鑑賞し、暗唱できる。
		13週	CMコピーの分析①	既習の表現法を整理し、説明できる。
		14週	CMコピーの分析②	既習の表現法を活用し、CMコピーを分析できる。
		15週	まとめ	到達目標に照らし、学習内容を点検し、整理できる。
		16週	答案返却	学習のまとめ

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	80	0	10	5	5	100
基礎的能力	80	0	10	5	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語 2	
科目基礎情報							
科目番号	0204		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		前期:2 後期:2		
教科書/教材	POLESTAR English Communication II (数研) /POLESTAR English Communication II ナビゲーションノート//フェイバリット英単語・熟語(テーマ別)コーパス3000 New Edition(東京書籍)						
担当教員	藤井 浩美						
到達目標							
1.200～300語の英文を読んで、その内容を正確に理解できる。 2.教科書で取り上げた英文題材を聞いて、その内容を理解できるとともに、英文を音読できる。 3.教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	200～300語の英文を読んで、その内容や文の構造を正確に理解し、自ら運用できる。		200～300語の英文を読んで、その内容や文の構造を正確に理解できる。		200～300語の英文を読んで、その内容や文の構造を理解しようとし ない。		
到達目標2	既習の英文を聞いてその内容を理解し、十分な速さでシャドーウィングできる。		既習の英文を聞いてその内容を理解し、流暢に音読できる。		既習の英文を聞いてその内容を理解はできるが、音読は困難である。		
到達目標3	教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を正確に理解し、自ら運用できる。		教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を正確に理解できる。		教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を正確に理解しようとし ない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	さまざまなジャンルの英語題材の読解を通して、英文読解力を身につけるとともに、英語構文力・語彙力など英語の総合的運用能力の向上を目指す						
授業の進め方・方法							
注意点	英検準 2 級以上、工業英検 3 級以上の取得を期待する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Lesson 1 Japan Through Foreign Eyes		シラバスの内容を理解する。 英文の内容を理解する。 英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		2週	Lesson 1 Japan Through Foreign Eyes		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		3週	Lesson 1 Japan Through Foreign Eyes		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		4週	Lesson 3 Table for Two -Helping Others as you Eat		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		5週	Lesson 3 Table for Two -Helping Others as you Eat		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		6週	Lesson 3 Table for Two -Helping Others as you Eat		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		7週	Review		既習事項を確認する		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	Lesson 4 Hayabusa - The Miraculous Return		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		10週	Lesson 4 Hayabusa - The Miraculous Return		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		11週	Lesson 4 Hayabusa - The Miraculous Return		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		12週	Lesson 5 Isamu Noguchi - Artistic Genius		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		13週	Lesson 5 Isamu Noguchi - Artistic Genius		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		14週	Lesson 5 Isamu Noguchi - Artistic Genius		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		15週	Review		既習事項を確認する		
		16週	前期末試験				
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 The Miracle Curitiba		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		2週	Lesson 6 The Miracle Curitiba		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		3週	Lesson 6 The Miracle Curitiba		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		4週	Lesson 8 Nelson Mandela and the Springboks		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		
		5週	Lesson 8 Nelson Mandela and the Springboks		英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。		

		6週	Lesson 8 Nelson Mandela and the Springboks	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		7週	Review	既習事項を確認する
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	Lesson 9 The Most Advanced Water	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		10週	Lesson 9 The Most Advanced Water	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		11週	Lesson 9 The Most Advanced Water	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		12週	Lesson 10 Donald Keene - Opening a Window on Japanese Culture	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		13週	Lesson 10 Donald Keene - Opening a Window on Japanese Culture	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		14週	Lesson 10 Donald Keene - Opening a Window on Japanese Culture	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
		15週	Review	既習事項を確認する
		16週	学年末試験 期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	60	15	20	0	5	100
基礎的能力	60	15	20	0	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語B
科目基礎情報						
科目番号	0205		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	ラーナーズ高校英語（数研出版）、Reading In 1（セーラーズ・イングリッシュ株式会社）、HyperListening Elementary（桐原書店）					
担当教員	城本 春佳					
到達目標						
1. 文法教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や英語構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、説明できる。 2. 学習した英文法の知識を応用して、文法的に正しい1文単位の簡単な英作文をすることができる。 3. 200～250語程度の英文を速読しながら全体の流れを把握し、必要な情報を探し出すことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基本的な英文法の内容や構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、正確に説明できる。		基本的な英文法の内容や構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、ほぼ正確に説明できる。		基本的な英文法の内容や構文の理解が不十分で、文法用語を用いた英文の分析や説明ができない。	
評価項目2	学習した英文法の知識を応用して、文法的に正しい1文単位の簡単な英作文ができる。		学習した英文法の知識を応用して、文法的にほぼ正しい1文単位の簡単な英作文ができる。		英文法の知識が不十分で、文法的に正しい1文単位の英作文ができない。	
評価項目3	200～250語程度の英文を速読しながら内容を把握し、制限時間内に必要な情報を探し出せる。		200～250語程度の英文を速読しながら内容をほぼ把握し、時間をかければ必要な情報の80%を探し出せる。		200～250語程度の英文を時間をかけて読んでも、探し出せる必要な情報は80%未満である。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語Aで学んだ基本事項に引き続き英文法を体系的に学び、英語基礎力を固める。並行して速読演習、聴解演習も行い、総合的に英語力を向上させる。					
授業の進め方・方法	各文法項目の解説を聞き、練習問題、英作文問題に取り組む。また、定期的に速読演習、聴解演習も行う。					
注意点	1. 配布プリントは必ずファイルに綴じること。 2. 授業には必ず辞書を持ってくること。 3. 下記授業計画以外に小テストや提出課題を課すことがある。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	シラバスの内容を理解する。		
		2週	比較Ⅰ Reading In 1	(1) 比較の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200～250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		
		3週	比較Ⅱ HyperListening Elementary	(1) 比較の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		
		4週	比較Ⅲ Reading In 1	(1) 比較の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200～250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		
		5週	関係詞Ⅰ HyperListening Elementary	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		
		6週	関係詞Ⅱ Reading In 1	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200～250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		
		7週	関係詞Ⅲ HyperListening Elementary	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	関係詞Ⅳ Reading In 1	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200～250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。		

後期		10週	仮定法Ⅰ HyperListening Elementary	(1) 仮定法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		11週	仮定法Ⅱ Reading In 1	(1) 仮定法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		12週	仮定法Ⅲ HyperListening Elementary	(1) 仮定法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		13週	話法 Reading In 1	(1) 話法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		14週	否定 HyperListening Elementary	(1) 否定の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		15週	前期の復習	(1) 前期に学習した文法項目の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。
		16週	前期末試験返却	
	3rdQ	1週	強調・倒置・省略 Reading In 1	(1) 強調・倒置・省略の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		2週	無生物主語・名詞構文 HyperListening Elementary	(1) 無生物主語・名詞構文の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		3週	前置詞 Reading In 1	(1) 前置詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		4週	接続詞 HyperListening Elementary	(1) 接続詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		5週	疑問詞 Reading In 1	(1) 疑問詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		6週	名詞・冠詞 HyperListening Elementary	(1) 名詞・冠詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		7週	代名詞 Reading In 1	(1) 代名詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。

		10週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 Reading In 1	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		11週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		12週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 Reading In 1	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		13週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		14週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 Reading In 1	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		15週	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		16週	学年末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	60	10	20	0	10	100
基礎的能力	60	10	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	0206		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	Q Skills for Success: Listening and Speaking, OUP				
担当教員	ブロワント クリストファー				
到達目標					
This course is designed to develop listening and speaking skills for English conversation by providing critical thinking opportunities which enable students to practice using an open-ended lecture format. Knowledge of English vocabulary, expressions and grammar is applied to real life situations. Composition and comprehension activities are also utilized in order to continue developing conversation fluency.					
ルーブリック					
		Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)	
Evaluation 1		Students are able to converse smoothly with one another and the native teacher.	Students can answer a question or make a comment in a few words and speak freely in a group.	Students cannot understand the majority of exercises and activities and cannot speak easily.	
Evaluation 2		Students speak their opinions directly and utilize critical thinking skills in English.	Students can answer the majority of questions, listen attentively and write their ideas clearly.	Students remain passive, do not express themselves and cannot comprehend the lecture.	
Evaluation 3		Students can take notes entirely in English and can present their ideas clearly and concisely.	Students can take notes in Japanese and grasp the main idea of the lecture but not the details.	Students can take notes in Japanese and do not understand the majority of the lecture.	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This course focuses on listening and speaking skills for Basic English conversation. Critical thinking opportunities aid students in processing new information and the application of that knowledge is related to real life situations through dialogue practice. Composition and comprehension activities are also utilized.				
授業の進め方・方法	1. Develop listening skills and communication strategies using native English conversation. 2. Gain confidence in speaking and listening and perfect compositional writing and critical reading skills. 3. Improve communication skills in order to smoothly engage in conversations with foreign people. 4. Engage in cultural awareness and open-mindedness to others using cultural comparisons.				
注意点	Students will come to class prepared. Students using a cellphone in class equals one tardiness on the first warning. Students will not sleep in the class. Students will be enthusiastic and enjoy themselves.				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction	Verbal output, participation experience	
		2週	Unit 1 Names	Speaking practice, cultural awareness	
		3週	Interview a classmate and introduce him or her to the class	Pronunciation, speed, fluency	
		4週	Unit 2 Work	Cultural awareness, goal setting	
		5週	Write interview questions and role-play a job interview	Critical thinking, natural expressions, pronunciation	
		6週	Unit 3 Long Distance	Listening practice, cultural awareness	
		7週	Give a presentation about customs in a culture	Cultural analysis by comparison, information gathering	
		8週	Midterm Exam		
	2ndQ	9週	Discussion of effective debate and argument tactics	Listening practice, speaking pronunciation, speed, fluency	
		10週	Unit 4 Positive Thinking	Social awareness: individual vs collective societies	
		11週	Participate and facilitate a group discussion	Critical thinking, natural expressions, pronunciation	
		12週	Unit 5 Vacation Time	Cultural awareness, group communication activities	
		13週	Give a presentation about a tour to a popular tourist destination	Domestic social awareness, pronunciation, speed, fluency	
		14週	Unit 6 Laughter	Cultural communication comparison, ice breaking	
		15週	Use appropriate eye contact, tone of voice, etc. to tell a story fluently	Body language, vocal pronunciation, tone, volume, fluency	
		16週	Final Exam and Review		
後期	3rdQ	1週	Review / Discussion	Additional output / participation experience	
		2週	Unit 7 Music	Critical thinking, natural expressions, pronunciation	
		3週	A group interview will be held	Listening practice, speaking pronunciation, speed, fluency	

		4週	Unit 8 Honesty	Cultural awareness, group communication activities
		5週	Conduct and survey to gather opinions on honesty and dishonesty	Social awareness: household and school rules comparison
		6週	Unit 9 Life Changes	Listening practice, critical thinking and expressing opinions clearly
		7週	Deliver a presentation providing instructions	Logic, clarity, organization in addition to pronunciation, fluency
		8週	Midterm Exam	
	4thQ	9週	Cultural exchange activity imagine studying abroad	Cultural awareness, collective goal achievement
		10週	Unit 10 Fear	Social awareness: solutions to danger in societal situations
		11週	Use phrases to describe emotions and experiences	Team work, use of informal expressions, pronunciation
		12週	Unit 11 Diversity	Cultural awareness, communication comparisons
		13週	Lead a discussion on the stereotypes and multiculturalism	Cultural analysis by comparison, information gathering
		14週	Unit 12 Global Community	Listening practice, speaking pronunciation, speed, fluency
		15週	Facilitate awareness of cultural differences	Wrap up critical awareness, review expressions
		16週	Final Exam and Review	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	Examination	Presentation	Quiz	Assignments	Other	合計
総合評価割合	60	10	10	15	5	100
Basic Ability	60	10	10	15	5	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0
Interdisciplinary Ability	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	物理
科目基礎情報						
科目番号	0207		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	総合物理 1 (数研出版)、リードα (数研出版)					
担当教員	園田 昭彦,平山 基					
到達目標						
物理学の学習を通じて自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。 さらに、物理学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を表す式をたて、それを用いて物体の運動を決定することができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができない	
運動量と力積	運動方程式から運動量と力積の関係を説明でき、それらを用いて運動の諸量を求めることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができない	
円運動・単振動	円運動と単振動の関係を説明でき、お互いの問題解決に利用することができる		円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができる		円運動や単振動に関する基本的な問題が扱えず、周期などの物理量を求めることができない	
熱量の保存	熱量の保存を用いて物体の比熱を求めることができ、熱と仕事の関係を説明できる		熱量の保存を用いて物体の比熱を求めることができる		熱量の保存則を用いて物体の熱容量や比熱を求めることができない	
熱力学第一法則	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、気体にした仕事や加えた熱量、温度変化を計算できる		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明できる		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。 本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。 2年では、力学・熱力学を中心に学習する。					
授業の進め方・方法	予習・講義・演習・復習・小テストで自分の理解度を確認しながら学習を進めてください。なお、本講義は前期開講の「物理実験・演習」とリンクしています。					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 仕事とエネルギー		仕事とエネルギーの関係について説明できる。	
		2週	運動エネルギー		運動エネルギーを計算できる。	
		3週	位置エネルギー		種々の位置エネルギーを計算できる。	
		4週	力学的エネルギー保存則		力学的エネルギー保存則を使って問題を解くことができる。	
		5週	運動量と力積		運動量と力積を計算できる。	
		6週	運動量保存則		運動量保存則を使って問題を解くことができる。	
		7週	反発係数		反発係数を計算できる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	円運動		角速度を使って変位や速度等を計算できる。	
		10週	円運動の加速度		円運動における加速度や向心力を計算できる。	
		11週	慣性力		慣性力を求めることができる。	
		12週	遠心力		遠心力を計算できる。	
		13週	単振動		単振動の式を理解できる。	
		14週	単振り子		単振り子の周期を導出できる。	
		15週	万有引力		万有引力の法則を理解できる。	
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	熱とエネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる。	
		2週	熱とエネルギー		仕事とエネルギーの関係を説明できる。	
		3週	気体の法則		気体の法則を用いて気体の状態を計算できる。	
		4週	気体分子の運動		気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる。	
		5週	気体分子の運動		気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる。	
		6週	気体の状態変化		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる。	
		7週	不可逆変化と熱機関		熱が関与する変化は一般に不可逆であることを説明できる。	

		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	波の伝わり方と種類	波の波長、周期、振動数、速さについて説明できる。 横波と縦波の違いについて説明できる。
		10週	重ね合わせの原理と波の干渉	波の重ね合わせの原理と波の独立性を理解できる。 また、定常波の特長について説明できる。
		11週	波の反射、屈折、回折	ホイヘンスの原理を理解し、波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。
		12週	波の反射、屈折、回折	ホイヘンスの原理を理解し、波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。
		13週	音波、発音体	弦や発音体の固有振動数を求めることができる。
		14週	ドップラー効果	一直線上の運動におけるドップラー効果の音の振動数変化を計算できる。
		15週	光波	波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを理解している。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	60	10	20	0	10	100
基礎的能力	40	10	10	0	10	70
専門的能力	20	0	5	0	0	25
分野横断的能力	0	0	5	0	0	5

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	物理実験・演習	
科目基礎情報							
科目番号	0208			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	前期:2		
教科書/教材	総合物理 1（数研出版）、リードα（数研出版）						
担当教員	園田 昭彦, 平山 基						
到達目標							
物理現象に関わる観察や実験などによって、自然に対する関心や探究心を高め、考察する力を育てるために教育領域の一つである。1 学年および 2 学年の物理で学習した内容をより深く理解するため、実験および演習を行う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
安全	安全に配慮して基本的な操作を行うことができ、グループの安全を確保できる。			機器などの取り扱い方を理解し、安全に配慮して基本的な操作を行うことができる。		機器などの取り扱い方を理解し、安全に配慮して基本的な操作を行うことができない。	
実験レポートの作成	座学で学んだ内容を発展させ、実験レポート（報告書）を作成できる。			実験結果を座学で学んだ内容と関連付け、実験レポート（報告書）を作成できる。		実験結果を座学で学んだ内容と関連付け、実験レポート（報告書）を作成できない。	
問題解決	演習問題を解き、1 学年や 2 学年で学習した内容を元に種々の物理量を計算できる。			演習問題を解き、1 学年や 2 学年で学習した内容を元に種々の物理量を計算できる。		演習問題を解き、1 学年や 2 学年で学習した内容を元に種々の物理量を計算できない。	
演習レポートの作成	演習問題を解き、自分の考え（考察）を論理的に展開し、演習レポートを作成できる。			演習問題を解き、自分の考え（考察）を含めて演習レポートを作成できる。		演習問題を解き、自分の考え（考察）を含めて演習レポートを作成できない。	
発表	問題の解法を論理的に発表することができ、質疑応答にも的確に回答できる。			問題の解法を論理的に発表することができる。		問題の解法を論理的に発表することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実験レポートや演習レポートを作成し、自分の行ったことや考えたことを論理的に文章にまとめる能力を身に付けるとともに、演習課題の発表および質疑応答を通じて自分の考えを積極的に出力する能力を養う。						
授業の進め方・方法	実験中は常に安全上の注意を怠らないこと。実験後は実験器具を元通りに戻し、机上を掃除する等のマナーを厳守すること。実験データを記入するためのノートや集計に利用する電卓などは各自で準備すること。						
注意点	実験と演習の順は前後することがあるのでガイダンスでの説明に注意すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	【実験】実験ガイダンス		実験に関するガイダンスを行い、説明を理解する。		
		2週	【実験】重力加速度の測定		単振動の基本的な知識を元に、重力加速度を計算できる。		
		3週	【実験】比熱の測定		比熱の基本的な知識を元に、測定した温度から比熱を計算できる。		
		4週	【実験】ホイートストンブリッジ回路		ホイートストンブリッジ回路の回路方程式から、未知の抵抗値を計算できる。		
		5週	【実験】サイコロから学ぶ誤差の求め方とデータ分布の性質		統計データを適切に扱い、データ分布について考察できる。		
		6週	【演習】運動の法則		運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度などを計算できる。		
		7週	【演習】剛体にはたらく力		力のモーメントを応用し、重心位置などを計算できる。		
		8週	【演習】剛体にはたらく力		力のモーメントを応用し、重心位置などを計算できる。		
	2ndQ	9週	【演習】仕事と力学的エネルギー		力学的エネルギー保存則から、物体の速度や位置などを計算できる。		
		10週	【演習】仕事と力学的エネルギー		力学的エネルギー保存則から、物体の速度や位置などを計算できる。		
		11週	【演習】運動量と力積		運動量保存則から、物体の速度や反発係数などを計算できる。		
		12週	【演習】円運動・慣性力		円運動の運動方程式を立て、速度や向心力を計算できる。		
		13週	【演習】円運動・慣性力		円運動の運動方程式を立て、速度や向心力を計算できる。		
		14週	【演習】単振動		単振動の運動方程式を立て、速度や力学的エネルギーなどを計算できる。		
		15週	【演習】万有引力		ケプラーの法則をもとに、惑星の公転速度や軌道半径を計算できる。また、万有引力から第一宇宙速度や第二宇宙速度を計算できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	

総合評価割合	0	0	80	10	10	100
基礎的能力	0	0	50	5	0	55
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	30	5	10	45

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	化学
科目基礎情報						
科目番号	0209		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	高等学校 化学基礎 (第1学習社) / フォローアップドリル (数研出版)、化学図録 (数研出版)、化学基礎 書き込みサブノート (旺文社)					
担当教員	山田 洋平,園田 昭彦					
到達目標						
1. 基本的な炭化水素を記述、分類できる。官能基から有機化合物の性質を類推できる。 2. 構成原子間の電子移動により酸化還元反応が進むことを理解し、酸化還元反応の量的な計算ができる。 3. 身近な電池の仕組みを理解し、構造の概略を説明できる。電気分解における量的関係の計算ができる。 4. 与えられた条件から熱化学方程式を立式できる。反応熱の計算ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基本的な炭化水素を記述できる。官能基から有機化合物の性質を系統的に説明できる。		基本的な炭化水素を記述できる。官能基から有機化合物の性質を類推できる。		基本的な炭化水素を記述できない。官能基から有機化合物の性質を類推できない。	
評価項目2	様々な酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができない。	
評価項目3	様々な電池の仕組みを系統的に説明できる。電気分解における量的な計算が正確にできる。		代表的な電池の仕組みを説明できる。電気分解における量的な計算ができる。		代表的な電池の仕組みを説明できない。電気分解における量的な計算ができない。	
評価項目4	熱化学方程式を立式できる。エネルギー図を用いて反応熱の計算が正確にできる。		熱化学方程式を立式できる。反応熱の計算ができる。		熱化学方程式を立式できない。反応熱の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	講義は理科総合 (1年) での学習内容をふまえて進めていく。理解が十分でない内容は必ず復習をして、授業には集中して取り組むこと。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	有機化合物:		飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。	
		2週	有機化合物:		飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。	
		3週	有機化合物・		飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造、性質を説明できる。	
		4週	有機化合物:		簡単な構造式を見て、官能基を見つけることができる。	
		5週	有機化合物・エステル (酢酸エチル、酢酸ペンチル、サリチル酸メチル) の合成実験		エステルの合成実験を通じて、分子構造の違いが物性 (特に匂い) に及ぼす影響を理解する。	
		6週	酸化還元反応:		電子の授受から酸化と還元を理解する。酸化数を決定できる。	
		7週	酸化還元反応:		酸化還元反応式における酸化数の変化から、酸化された物質、還元された物質を決定できる。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	酸化還元反応:		酸化剤と還元剤の半反応式をつくることができる。	
		10週	酸化還元反応		酸化剤と還元剤の半反応式から全反応式をつくることができる。	
		11週	酸化還元反応		酸化還元滴定の原理を説明し、計算することができる。	
		12週	酸化還元反応		金属のイオン化傾向と金属の反応性について関連付けして説明できる。	
		13週	酸化還元反応		金属のイオン化傾向と金属の反応性について関連付けして説明できる。	
		14週	酸化還元反応		電池の基本的な原理を説明できる。ダニエル電池・ボルタ電池の原理を説明できる。	
		15週	酸化還元反応		鉛蓄電池・燃料電池の原理を説明できる。	
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	電気分解		電気分解の反応系を見て、電極材料と水溶液中に存在する分子やイオンを列挙できる。	
		2週	電気分解		電極材料と水溶液の情報から、電極上で起こる反応を記述できる。	
		3週	電気分解		電気分解の応用例 (NaCl水溶液の電気分解・電解精錬) を説明できる。	
		4週	電気分解		電気分解における量的関係の計算ができる。	
		5週	電気分解		電気分解における量的関係の計算ができる。	

		6週	反応熱と熱化学方程式	いくつかの反応熱を挙げ、それを熱化学方程式で記述できる。
		7週	反応熱と熱化学方程式	いくつかの反応熱を挙げ、それを熱化学方程式で記述できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	反応熱と熱化学方程式	ヘスの法則を用いた反応熱の計算ができる。
		10週	反応熱と熱化学方程式	結合エネルギーを用いた反応熱の計算ができる。
		11週	化学反応の速さ	化学反応の速さを決める因子をいくつか説明できる。
		12週	化学反応の速さ	触媒と活性化エネルギーの関係について説明できる。
		13週	化学反応の速さ	過酸化水素の分解実験
		14週	化学反応の速さ	過酸化水素の分解実験の結果から、発生した酸素の物質質量と時間の関係および反応の速さと濃度の関係をグラフ化できる。
		15週	化学反応の速さ	ハーバー・ボッシュ法の意義を説明できる。
		16週	後期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	世界史
科目基礎情報						
科目番号	0210		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	世界史B（東京書籍）/歴史年表（東京書籍）					
担当教員	濱田 香織					
到達目標						
1. 日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史を理解できる。 2. 人類が各地の自然環境に適応しながら、諸文明を築き上げ、地域世界を形成したことを理解できる。 3. 民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 4. 現代社会におけるあらゆる問題が地球規模のものであることを理解し、将来の課題を考えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。		日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、説明できる。		日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。	
評価項目2	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。		人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できる。		人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。	
評価項目3	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から詳細に説明できる。		民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。		民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から十分に説明できない。	
評価項目4	将来の課題を考え、文章にまとめることができ、自分ができる取り組みについて考えることができる。		将来の課題を考え、文章にまとめることができる。		将来の課題について、十分に考えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	世界史の学習により、日本の歴史を世界の様々な地域の歴史と比較して考察する力や日本を外から見る視点を養う。					
授業の進め方・方法	講義形式の授業で、世界の歴史への興味・関心を高め、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解する。国家間や国家内でみられる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解し、文化に多様性を認識し、お互いの文化を尊重する態度を身につける。					
注意点	講義での学習内容を定期試験で確認しますので、講義を毎回しっかり聴くことを心がけてください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文明以前の人類・オリエント世界と東地中海世界		オリエント世界と東地中海世界の成り立ちを説明できる。	
		2週	オリエント世界と東地中海世界		オリエント世界と東地中海世界の成り立ちを説明できる。	
		3週	地中海世界と西アジア		地中海世界と西アジア世界の成り立ちを説明できる。	
		4週	南アジア世界		南アジア世界における各王朝について説明できる。	
		5週	東アジア世界		東アジア世界における各王朝について説明できる。	
		6週	東アジア世界		東アジア世界における各王朝について説明できる。	
		7週	中間試験			
		8週	内陸ユーラシア世界・東南アジア世界・古アメリカ世界		内陸ユーラシア世界・東南アジア世界・古アメリカ世界について説明できる。	
	2ndQ	9週	イスラーム世界の形成		イスラーム世界の形成について説明できる。	
		10週	ヨーロッパ世界の形成		ヨーロッパ世界の形成について説明できる。	
		11週	ヨーロッパ世界の形成		ヨーロッパ世界の形成について説明できる。	
		12週	東アジア世界の変容とモンゴル帝国		東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。	
		13週	東アジア世界の変容とモンゴル帝国		東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。	
		14週	海域世界の発展・ユーラシア諸帝国の繁栄		ユーラシア諸帝国の繁栄について説明できる。	
		15週	ユーラシア諸帝国の繁栄・大交易時代		ユーラシア諸帝国の繁栄について説明できる。	
		16週	期末試験答案返却			
後期	3rdQ	1週	近世のヨーロッパ		近世のヨーロッパについて説明できる。	
		2週	近世のヨーロッパ		近世のヨーロッパについて説明できる。	
		3週	欧米における工業化と国民国家の形成		欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		4週	欧米における工業化と国民国家の形成		欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		5週	産業資本主義の発展と帝国主義		産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。	
		6週	産業資本主義の発展と帝国主義		産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。	
		7週	アジア諸地域の変革運動		アジア諸地域の変革運動について説明できる。	
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	世界戦争の時代		世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。	
		10週	世界戦争の時代		世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。	

		11週	世界戦争の時代	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。
		12週	国民国家体制と東西の対立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
		13週	国民国家体制と東西の対立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
		14週	経済のグローバル化と新たな地域秩序	経済のグローバル化と地域統合について説明できる。
		15週	経済のグローバル化と新たな地域秩序	新しい国際秩序について理解し、諸問題への取り組みを考えることができる。
		16週	期末試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	政治経済
科目基礎情報						
科目番号	0211		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	教養の政治学・経済学（学術図書出版社）/憲法[第五版]（岩波書店）					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1.民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。 2.日本国憲法を基軸に現在の政治制度を説明できる。 3.現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	民主政治を基本理論として社会契約説を説明できる。		社会契約説の基本枠組みを説明できる。		社会契約説の本枠組みを説明できない。	
到達目標2	現在の政治制度の基本原理・制度・運用を説明できる。		現在の政治制度の基本構造を説明できる。		現在の政治制度の基本構造を説明できない。	
到達目標3	現在の国民経済の問題点や経済関連の諸政策の課題を説明できる。		現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。		現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目では、民主政治の在り方と経済社会の仕組みについて包括的に学習する。					
授業の進め方・方法	授業では、まず、民主主義の基本原理を理解したうえで、現在の政治制度を、日本国憲法を基軸に考察する。今日的な人権問題や社会問題についても学ぶ。次いで、経済の基礎概念を理解した上で、現在の国民経済の把握方法や経済関連の諸政策を考察する。現代企業論についても学ぶ。以上により、政治と経済の基本的論点について説明できる能力を身につける。					
注意点	日常的に、政治や経済の問題について主体的に関心を持つようにしてください。 時事的な話題や自分の身の回りの政治や経済に目を向け、授業との関連付けをしましょう。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	政治原論		社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		2週	政治原論		社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		3週	政治各論 「大日本帝国憲法」		天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		4週	政治各論 「大日本帝国憲法」		天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		5週	政治各論 「日本国憲法」 国民主権・権力分立		主権、国民主義、権力分立について説明できる。	
		6週	政治各論 「日本国憲法」 国民主権・権力分立		主権、国民主義、権力分立について説明できる。	
		7週	中間試験			
		8週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
	2ndQ	9週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		10週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		11週	国会・選挙制度・政党		国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		12週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		13週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		14週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		15週	内閣・官僚制		議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		16週	期末試験答案返却			
後期	3rdQ	1週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		2週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		3週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		4週	裁判所・基本的人権		司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		5週	圧力団体・世論		日本の圧力団体、世論について説明できる。	
		6週	経済原論		経済理論、経済体制、経済主体、経済活動について説明できる。	

		7週	経済各論 市場経済と価格機構	市場機構、独占・寡占について説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	経済各論 国民経済	国民所得、国富について説明できる。
		10週	経済各論 国民経済	国民所得、国富について説明できる。
		11週	経済各論 景気循環	景気変動、景気指標について説明できる。
		12週	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		13週	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		14週	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		15週	経済各論 現代企業論	企業組織、企業の社会的責任について説明できる。
		16週	期末試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	30	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0212		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材						
担当教員	新井 修,中島 一					
到達目標						
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 安全に留意して運動や活動ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につける事ができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、安全に留意して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。					
授業の進め方・方法	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。					
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ソフトバレーボール		ソフトバレーボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	ソフトバレーボール		サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		3週	ソフトバレーボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	ソフトバレーボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	インディアカ		インディアカのルールを理解し説明できる。	
		6週	インディアカ		サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		7週	インディアカ		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	インディアカ		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	ヘルスパレーボール		ヘルスパレーボールのルールを理解し説明できる。	
		10週	ヘルスパレーボール		サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		11週	ヘルスパレーボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	ヘルスパレーボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会（前期）		参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会（前期）		参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会（前期）		参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	サッカー・フットサル		サッカー・フットサルのルールを理解し説明できる。	
		2週	サッカー・フットサル		サッカー・フットサルのルールを理解し説明できる。	
		3週	サッカー・フットサル		ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。	
		4週	サッカー・フットサル		ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。	
		5週	サッカー・フットサル		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	サッカー・フットサル		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	ソフトボール		ソフトボールのルールを理解し説明できる。	
		8週	ソフトボール		ソフトボールのルールを理解し説明できる。	
	4thQ	9週	ソフトボール		打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	
		10週	ソフトボール		打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	
		11週	ソフトボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	ソフトボール		互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会（後期）		参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	

		14週	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	微分積分
科目基礎情報						
科目番号	0301		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年		3	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	「微分積分 改訂版」 矢野健太郎 石原繁 編 裳華房, 新課程チャート式数学Ⅲ 数研, 練習ドリル数学Ⅲ 数研					
担当教員	田上 隆徳,櫛田 雅弘					
到達目標						
1. 関数や数列の極限の概念を理解し, 極限の計算ができる。 2. 導関数の公式を用いて基本的な関数の導関数が求められる。 3. 基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができる。 4. 重積分の基本的な計算ができて体積計算に応用できる。 5. 偏微分の基本的な計算ができて 2 変数関数の極値が求められる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル(可)	
到達目標1	数列の極限の概念を理解し, 基本的な数列の極限計算ができる。		数列の極限の概念を理解し, 基本的な数列の極限計算ができる。		簡単な数列の極限計算ができる。	
到達目標2	逆三角関数を理解して、常時その値の計算や積分へ応用ができる		導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値などが求められる。		簡単な関数の微分計算ができ、接線や極値が求められる。	
到達目標3	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算が常時でき、面積などにも常時応用できる。		積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算ができ、面積や体積の計算ができる。		簡単な積分の計算ができる。	
到達目標4	累次積分が常時計算できる。重積分が常時計算できる。重積分を応用して体積計算などが常時できる。		累次積分や重積分の計算ができる。重積分を応用して体積計算などができる。		簡単な累次積分や重積分の計算ができる。	
到達目標5	2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の計算が常時でき、2変数関数の極値が求められる。		2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の計算ができ、2変数関数の極値が求められる。		簡単な偏微分の計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では極限、微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を修得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。					
授業の進め方・方法	教科書を基にして、例題を解説したのち関連する問題演習行う。併せて、習得状況を確認するための小テストを適宜行う。さらに、重要公式を書いた単語帳形式の資料を作成させることで、学習内容を整理するとともに未習得事項を把握する技術を確立する。					
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験だけでなく、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	数列の極限		数列の極限を求めることができる。	
		2週	無限数列の和		基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		3週	逆三角関数		逆三角関数の意味を理解して、その値が計算できる。	
		4週	逆三角関数の微分		逆三角関数の微分計算ができる	
		5週	逆三角関数を用いた定積分		逆三角関数を用いた定積分が計算できる	
		6週	極値と凹凸		様々な関数の極値、凹凸、変曲点が求められる	
		7週	様々な関数のグラフ		様々な関数のグラフが書ける。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	不定積分		様々な不定積分の公式を記憶している。	
		10週	定積分 1		不定積分の公式を用いて基本的な定積分の計算ができる。	
		11週	定積分 2		不定積分の公式を用いて様々な定積分の計算ができる。	
		12週	置換積分 1		簡単な置換で定積分が計算できる。	
		13週	置換積分 2		様々な置換で定積分が計算できる。	
		14週	部分積分 1		部分積分を用いて定積分が計算できる。	
		15週	部分積分 2		部分積分を複数回用いて定積分が計算できる。	
		16週	まとめ		様々な定積分が計算できる。	
後期	3rdQ	1週	定積分の応用 1		基本的な曲線で囲まれた図形の面積を定積分を用いて計算できる。	
		2週	定積分の応用 2		様々な曲線で囲まれた図形の面積を定積分を用いて計算できる。	
		3週	回転体の体積		回転体の体積を定積分を用いて計算できる。	
		4週	累次積分		累次積分が計算できる。	
		5週	重積分		重積分が計算できる。	

		6週	極座標変換	極座標変換して重積分が計算できる。
		7週	まとめ	様々な重積分が計算ができる。
		8週	中間試験	偏微分の計算や重積分の基本的計算ができる。
	4thQ	9週	2変数関数と極限	2変数関数やそのグラフの意味が理解できる。極限が計算できる。
		10週	偏微分	偏微分
		11週	第2次導関数1	基本的な関数の第2次導関数が計算できる。
		12週	第2次導関数2	様々な関数の第2次導関数が計算できる。
		13週	合成関数の微分	偏導関数を用いて合成関数の微分が求められる。
		14週	陰関数の微分	偏導関数を用いて陰関数の微分が求められる。
		15週	2変数関数の極値	偏導関数を用いて基本的な2変数関数の極値が求められる。
		16週	まとめ	偏微分が計算できる。偏微分を応用して極値などが求められる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	数学C
科目基礎情報						
科目番号	0302		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「線形代数」矢野健太郎 石原繁 (裳華房)、「微分積分 改訂版」矢野健太郎 石原(裳華房)					
担当教員	川崎 敏和,宮本 陽生					
到達目標						
1. 行列の和・差・積・実数倍、行列式の値の計算ができる。 2. 掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。 3. 1次変換による簡単な図形の像・原像を求めることができる。 4. 行列の固有値・固有ベクトルを求めて、対角化ができる。 5. 極座標と極方程式の基本的な計算ができる。 6. 変数分離形・同次形・1階線形など基本的な微分方程式の一般解を求めることができる。 7. 定数係数2階線形微分方程式の一般解を求めることができる。 8. 変数分離形、線形微分方程式など基本的な微分方程式の特殊解を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。		行列の和差積, および行列式の値の計算ができる。		4次の行列式の計算ができないし、行列の積も正確に計算できない。	
到達目標2	掃き出し法により、正方行列の正則性を判定できる。		き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。		掃き出し法により逆行列を求めることができない。	
到達目標3	1次変換による簡単な図形の原像を求めることができる。		基礎的な1次変換を行列で表すことができ、1次変換による簡単な図形の像を求めることができる。		基礎的な1次変換を行列で表すことができない。	
到達目標4	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。		2次と3次の正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができ、それを用いて対角化できる。		2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができない。	
到達目標5	極座標と直交座標を相互に変換ができ、極方程式と直交座標に関する方程式を相互に変換できる。		極座標を直交座標に変換ができ、極方程式を直交座標に関する方程式に変換できる。		極座標を直交座標に変換ができない。	
到達目標6	微分方程式が変数分離形、同次形、1階線形かを判定でき、一般解を求めることができる。		変数分離形、同次形、1階線形方程式の一般解を求めることができる。		変数分離形方程式を、積分形に変形できない上に定数変化法を理解できない。	
到達目標7	非斉次項が斉次方程式の一般解に含まれている場合にも特殊解を求めることができる。		斉次方程式の一般解を求めることができ、非斉次方程式の特殊解を求めることができる。		補助方程式を求めることができない。	
到達目標8			初期条件や境界条件を理解し、一般解から特殊解を求めることができる。		初期条件・境界条件を利用して特殊解を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、前期では、工学への応用で重要な役割を果たす行列と行列式の計算およびその応用を学習する。 後期では、最初に極座標と極方程式について学習し、その後、基本的な微分方程式の解法を習得し、計算力を養う。					
授業の進め方・方法	教科書を基に単元ごとに作成したプリントを用いて授業を進める。例題の解説や計算方法を説明し、関連する問題演習を行う。また、小テストなどを適宜行い習得状況を確認する。					
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。 3. 課題など提出物は提出期限を厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行列式 (1)		2次・3次の行列式の値の計算ができる	
		2週	行列式 (2)		行列式の展開を利用して4次の行列式の値の計算ができる。 行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。	
		3週	行列		行列の和・差・積・実数倍の計算ができる。	
		4週	行列と行列式		正方行列の積と累乗の行列式の値を求めることができる。	
		5週	連立1次方程式・逆行列 (1)		2次正方行列の逆行列を求めることができる。	
		6週	連立1次方程式・逆行列 (2)		掃き出し法により連立1次方程式の解を求めることができる。	
		7週	連立1次方程式・逆行列 (3)		掃き出し法により3次正方行列の逆行列を求めることができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	1次変換 (1)		対称移動・回転など基本的な1次変換を行列で表すことができる。	
		10週	1次変換 (2)		1次変換の合成変換・逆変換を求めるができる。	
		11週	1次変換 (3)		直線など基本的な平面図形の、1次変換による像・原像を求めることができる。	

後期		12週	固有値と固有ベクトル (1)	2次・3次の正方行列の固有値・固有ベクトルを求めることができる。
		13週	固有値と固有ベクトル (2)	正方行列の固有値・固有ベクトルを用いて対角化できる。
		14週	固有値と固有ベクトル (3)	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。
		15週	固有値と固有ベクトル (4)	対称行列を直交行列を用いて対角化できる。
		16週	前期期末試験	
	3rdQ	1週	極座標	極座標の表し方を理解し、直交座標に変換でき、その逆もできる。
		2週	極方程式 (1)	極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。
		3週	極方程式 (2)	2次曲線を表す極方程式を、直交座標に関する方程式に変換できる。
		4週	微分方程式と解	微分方程式を理解し、与えられた関数が一般解か特殊解か判定できる。
		5週	変数分離形微分方程式の解法 (1)	変数分離形微分方程式の一般解を求めることができる。
		6週	変数分離形微分方程式の解法 (2)	初期条件を理解し特殊解を求めることができる。
		7週	同次形微分方程式の解法	同次形微分方程式の一般解を求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	1 階線形微分方程式の解法 (1)	定数変化法により 1 階線形微分方程式の一般解を求めることができる。
		10週	1 階線形微分方程式の解法 (2)	定数変化法により 1 階線形微分方程式の一般解を求めることができる。
		11週	定数係数 2 階線形微分方程式の解法 (1)	斉次方程式を理解し、一般解を求めることができる。
		12週	定数係数 2 階線形微分方程式の解法 (2)	初期条件および境界条件を理解し、特殊解を求めることができる。
		13週	定数係数 2 階線形微分方程式の解法 (3)	非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。
		14週	定数係数 2 階線形微分方程式の解法 (4)	非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。
		15週	定数係数 2 階線形微分方程式の解法 (5)	非斉次項の関数が、斉次形方程式の一般解に含まれている場合も特殊解を求めることができる。
		16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み	その他	合計
総合評価割合	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本語総合	
科目基礎情報							
科目番号		0303		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		一般教養		対象学年	3		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ（阿南高専）／級別漢字学習帳7級～2級（東京法令出版）					
担当教員		坪井 泰士,錦織 浩文					
到達目標							
1. 他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させて説明できる。 2. 類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に活用できる。 3. 古文・漢文の時代背景を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)	
到達目標1		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを適切に整理し、深化させて適切な表現スキルにより説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを適切に整理し、深化させて説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させて説明できる。	
到達目標2		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に効果的に活用できる。		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に適切に活用できる。		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に活用できる。	
到達目標3		古文・漢文の時代背景を理解し、文化的価値を適切に説明できる。		古文・漢文の時代背景を理解し、文化的価値を説明できる。		古文・漢文の時代背景を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。					
授業の進め方・方法		授業は、表現に関する実践を基本とする。また、古文・漢文の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解・表現の力を培う。					
注意点		毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 情報の信頼性		シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。 情報の信頼性の確保について説明できる。		
		2週	情報の収集と分類		ブレーンストーミング法、K-J法について説明し、実践できる。		
		3週	口頭表現		口頭表現の特徴について説明できる。		
		4週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。		
		5週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。		
		6週	漢字とかな		漢字とかな等について説明できる。		
		7週	漢字とかな		漢字とかな等について説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	答案返却 古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。		
		10週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。		
		11週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。		
		12週	漢文		論語の背景・大意を理解し、暗唱できる。		
		13週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		14週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		15週	グループ・ディスカッション		グループ・ディスカッション技法を理解し、実践できる。		
		16週	答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。		3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。		3	

				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	2	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	2	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	75	10	0	10	5	100
基礎的能力	75	10	0	10	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語 3
科目基礎情報						
科目番号	0304		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	Pole Star /Rapid Reading/ All Ears 2, 3/ Conquer/ 英語の構文 8 0 /他					
担当教員	林田 栄治,三宅 恵美,谷川 奈緒子					
到達目標						
1. 300語～400語程度の英文を速読し大意を把握できるようにする。 2. 本文で使われている重要語句と語彙集で取り上げた語句を習得する。 3. 本文および文法参考書で取り上げた文法事項を理解する。 4. リスニング力の向上を図る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目2	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。		教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。	
評価項目3	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。	
評価項目4	教科書の読み物を音声に合わせて十分英語らしい発音でシャドウイングできる。聞いてよくわかる。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。 聞いて概ねわかる。		教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句に理解できないものが多く残っている。聞いてわからない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	検定教科書Pole Starを使用し精読を行います。Rapid Readingで速読力を養います。Conquerを使用し、英文法力と語彙力をつけます。英語の構文 8 0 を使い構文を基本構文をマスターします。All Ears Level 2と3でリスニング力をつけます。Video Interviewsを視聴し、生の英語にふれます。また、Topic Writing による課題英作文の提出を求め、自由英作文力をつけます。以上の活動を通じて、総合的に英語の3技能(読む、聞く、書く)を向上させます。					
授業の進め方・方法	速読テクニックを意識しながら、毎回200語～400語程度の英文の読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、本文に使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運動能力の向上を目指します。文法・構文力は、2年次から使用している文法参考書・ワークブックを併用して補強します。語彙力は、1年次から使用している語彙集も用いて補強します。リスニング演習、Video Clipを視聴します。					
注意点	1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 3. 提出物の提出期限は厳守すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Polestar Lesson 1~4 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2,		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		2週	Polestar Lesson 1~4 Rapid Reading,Conquer, All Ears, Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		3週	Polestar Lesson 1~4 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		4週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading,Conquer, All Ears Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		5週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading,Conquer, All Ears Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		6週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, Conquer,All Ears Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		7週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading,Conquer, All Ears Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		8週	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading,Conquer, All Ears Level 2		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading,Conquer, All Ears Level 2, 課題英作文		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		11週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2, 課題英作文		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		12週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2, 課題英作		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		13週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2, 課題英作		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	
		14週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading,Conquer, All Ears Level 2, 課題英作文		到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。	

後期		15週	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2, 課題英作	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		16週	前期期末試験	
	3rdQ	1週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 3, 英語の構文80, Conquer, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		2週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		3週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 3, 英語の構文80, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 3, 英語の構文80、課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 3 英語の構文80, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8週	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, Conquer, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		13週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		14週	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 3, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		15週	遅れ等の調整時間	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		16週	遅れ等の調整時間	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	15	15	10	100
基礎的能力	60	0	0	15	15	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英作文
科目基礎情報						
科目番号	0305		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	New Favorite English Expression I（東京書籍）、同準拠Workbook Task-based/					
担当教員	小笠原 麻衣子					
到達目標						
英語でのコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。様々なテーマに関する情報や自分の意見を英語で表現、発表できること。基本的な文法事項や構文を学びながら、それを応用して英作できるようになることを具体的な目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル	
到達目標1	教科書のトピックに関する内容を十分理解し、自身を持って積極的に発表できる。		教科書の内容を理解し、発表を実践できる。		教科書の内容が十分理解できず、発表を実践することが困難である。	
到達目標2	構文を理解し、それらを活用することができ、自分の考えを英語で表現できる。		構文を理解し、指導者のサポートによりそれを活用できる。英語で自己表現しようとする姿勢がある。		構文が十分理解できず、応用が困難であり、まとまった考えを英語で表現できない。	
到達目標3	テーマに沿った100語程度の作文ができ、それを正しい発音やイントネーションで発表できる。		テーマに沿った100語程度の作文ができ、それを口頭で発表できる。		暗唱ができず、テーマの内容を口頭で十分に発表できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ライティング活動では、基本的な文法事項や構文を学び、それを使えるようなスキルを身につける。また、様々なトピックを扱った文章に触れ、それに関して自分の意見を表現できるライティング力を養う。前期では100ワード程度の作文を書き、それを口頭発表する。後期は、同じく100ワード程度の作文を書き、写真や図などの資料を用いて口頭発表（ポスタープレゼンテーション）をする。					
授業の進め方・方法	テキストとワークブックを中心に英語を聞くこと、話すことを実践する。また、正しい英文が書けるよう指導する。					
注意点	授業には必ず辞書を携行し、積極的に活用すること。ワークブック及びプリントによる課題提出が定期的に求められる。前期、後期ともにオーラルチェックを実施するので、授業には常に積極的に臨み、英語を使うことを実践すること。前期後期ともに口頭発表を実施するので、授業では普段から正しい発音、イントネーションで英語を話すことを心がける。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Lesson 1,2		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。	
		2週	Lesson 3,4		同上	
		3週	Do you remember?1 / Game1		同上	
		4週	Lesson 5		同上	
		5週	Lesson 6		同上	
		6週	口頭発表準備		同上	
		7週	口頭発表		発表	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	Lesson7		基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。	
		10週	Lesson8		同上	
		11週	Game2 / Writing Tips1		同上	
		12週	Lesson 9		同上	
		13週	Lesson 10		同上	
		14週	Lesson 11			
		15週	前期期末試験			
		16週				
後期	3rdQ	1週	Lesson12		目的に応じた文章の書き方について学び、実際に書くことができる。	
		2週	Lesson13		同上	
		3週	Lesson14		同上	
		4週	Lesson15		同上	
		5週	Lesson16		同上	
		6週	Do you remember?4			
		7週	Game4 / Writing Tips2		様々な場面に応じた発表が口頭でできる。	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	Lesson17,18		情報や考え気持などを英語で豊かに表現できる。	
		10週	Lesson19		同上	
		11週	Lesson 20		同上	
		12週	Do you remember?5		同上	
		13週	口頭発表準備		同上	

		14週	口頭発表	100語程度の作文ができ、それを適切な資料を用いて口頭発表できる。
		15週	後期期末試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他			合計
総合評価割合	60	15	0	10	15	0	0	100
基礎的能力	60	15	0	10	15	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	物理
科目基礎情報						
科目番号	0306		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	総合物理 2 (数研)					
担当教員	松尾 俊寛,園田 昭彦					
到達目標						
電磁気：クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を説明できる。また、電流が磁場を生み出すことを説明でき、簡単な場合について磁場の強さを計算できる。 原子：光や電子の粒子性と波動性を説明でき、ボーアの原子模型から離散スペクトルを計算できる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できる。 微分積分を用いた力学：微積分を用いて力学の基本的な扱いができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)	
電気	クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を理解し、法則を数式を用いて説明することができる。それらに基づいて応用問題の解決に利用できる。		電気に関する基礎的な現象を説明でき、クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を公式で表し、問題解決に運用できる。		電気に関する基礎的な現象をあげることができ、クーロンの法則や電場などの基本的概念を説明できる。	
磁気	電流が磁場を生み出すことを理解し法則を数式で説明できる。磁気に関する基礎的な現象を法則にもとづいて計算できる。		電流が磁場を生み出すことを説明でき公式を数式で表すことができる。それを用いて簡単な場合について磁場の強さを計算できる。		電流が磁場を生み出すことを理解し、磁気に関する基礎的な現象を説明できる。	
量子論	光や電子の二重性を説明でき、基本的な公式を用いて問題解決に応用できる。ボーアの理論を理解し、離散スペクトルが現れることを説明できる。		光や電子の粒子性・波動性を説明でき、基本的な公式を運用できる。ボーアの理論から離散スペクトルを計算できる。		光や電子の粒子性・波動性を説明できる。ボーアの量子条件を説明できる。	
原子核	原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明でき、環境社会への影響を説明できる。		原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明でき、公式を用いて数値的な評価ができる。		原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できる。	
微分積分を用いた力学	力学の基本法則を微積分を用いて表すことができ、公式の導出に適用できる。また種々の典型的な問題解決に応用できる。		微分積分を用いて力学の問題に関する基本的な扱いができる。		力学に現れる諸量や公式を微分積分の言葉で表すことができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。3年では、おもに電磁気学と原子物理の基礎を学ぶ。また、微分積分を用いた力学の扱い方について初等的な内容の学習をおこなう。					
授業の進め方・方法	授業は、小テスト（前回の復習）、講義による説明（新しく学ぶ内容）、問題演習（学んだ内容の確認）で構成します。					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	静電気力		クーロンの法則により電荷間に働く力を計算できる	
		2週	電場と電位		電荷がつくる電場とその電位を説明できる	
		3週	電流		荷電粒子の運動の総体として電流を説明できる	
		4週	磁場		磁場の性質を説明できる	
		5週	電流の作る磁場		電流の作る磁場を計算できる	
		6週	電流が磁場から受ける力		電流が磁場から受ける力を計算できる	
		7週	ローレンツ力		磁場中を運動する荷電粒子が受ける力を説明できる	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	電磁誘導の法則		電場や磁場が変化するときの現象を説明できる	
		10週	電磁誘導の法則		誘導起電力とエネルギーについて説明できる	
		11週	電磁波		電場と磁場の変化によって電磁波が生じることを説明できる	
		12週	半導体		半導体の基本的事項を説明できる	
		13週	微分積分を用いた力学 1		速度や加速度のような基本的な量を微分や積分を用いてあらわすことができる	
		14週	微分積分を用いた力学 2		これまでに学習した力学法則を微分積分をもちいて表現することができる	
		15週	微分積分を用いた力学 3		微分方程式の簡単な例について解くことができる	
		16週	期末試験返却			
後期	3rdQ	1週				
		2週	電子		電子の比電荷を説明できる	
		3週	光の粒子性		アインシュタインの光子量子説を説明できる	

		4週	粒子性と波動性	X線の粒子性とコンプトン効果、ドブロイの物質波を説明できる
		5週	原子の構造	ラザフォードの原子模型を説明できる
		6週	ボーアの理論 1	ボーアの原子模型の説明ができる
		7週	ボーアの理論 2	ボーアの理論によりエネルギー準位の計算ができる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	総合復習 1	力学、熱力学分野の復習をおこなう
		10週	総合復習 2	波動、光分野の復習をおこなう
		11週	総合復習 3	電磁気分野の復習をおこなう
		12週	学習到達度試験	
		13週	原子核	原子核の構成と同位体を説明できる
		14週	放射線とその性質	放射線の種類とそれらの性質を説明できる
		15週	核反応と核エネルギー	核反応を説明できる
		16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	到達度試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	40	10	20	20	10	0	100
基礎的能力	20	10	20	10	10	0	70
専門的能力	20	0	0	10	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本史
科目基礎情報						
科目番号	0307		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高校日本史B (山川出版社) / 写真資料集：日本史のアーカイブ (とうほう)					
担当教員	甚川 正美					
到達目標						
1.古代から現代にいたる我が国の歴史の基礎的知識について説明できる。 2.過去のいろいろな出来事を歴史資料を通して明らかにし、時間の流れに即して因果関係を説明できる。 3.世界史的視野に立つて歴史の展開を考察することで、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル (可)	
到達目標1	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、詳細に説明できる。		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、その概要を説明できる。		古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、十分に説明できない。	
到達目標2	日本の歴史について、詳細に説明できる。		日本の歴史の流れについて、その概略を説明できる。		日本の歴史の流れについて、十分に説明できない。	
到達目標3	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して詳細に説明できる。		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して説明できる。		国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して十分に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本史を学ぶことによって、わが国の伝統や文化を理解し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。					
授業の進め方・方法	講義形式の授業で、日本の諸地域における歴史の流れについて、教科書を用いて考察する。また、日本文化の特色・人々の生活・都市の形成・地域同士の交流などに着目し、歴史資料を通して理解を深める。					
注意点	教科書に加えて、通常授業では歴史資料集や学習プリント等を使用する。また、ノート提出も予定しているので、「講義をしっかりと聴き、ノートをしっかりとること」を心がけてほしい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		2週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		3週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		4週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		5週	原始・古代		古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		6週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		7週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		10週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		11週	中世		武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		12週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		13週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		14週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		15週	近世 (1)		幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		16週	期末試験答案返却時間			
後期	3rdQ	1週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		2週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		3週	近世 (2)		幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期・後期)	
		4週	近代 (1)		近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	
		5週	近代 (1)		近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	

		6週	近代（1）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		7週	近代（1）	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 （幕末～明治）
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	近代（2）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		10週	近代（2）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		11週	近代（2）	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 （大正～戦前昭和）
		12週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		13週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		14週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		15週	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 （戦後昭和～平成）
		16週	期末試験答案返却時間	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	0308			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養			対象学年	3	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)					
担当教員	宮本 寛和					
到達目標						
1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。 2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。 3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル (可)
到達目標1	自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。			自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。		自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。
到達目標2	現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。			現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。		現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。
到達目標3	現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。			地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。		地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察する。					
授業の進め方・方法	講義形式での授業をつうじて、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
注意点	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標
		1週	地理情報と地図、地図の活用			地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化だわかることを考察し、地図化の技能を習得している。
		2週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		3週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		4週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		5週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		6週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
		7週	自然環境			地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。
	8週	中間試験				
	2ndQ	9週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		10週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		11週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		12週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		13週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		14週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
		15週	資源と産業			産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。
16週		期末試験答案返却時間				
後期	3rdQ	1週	人口、村落・都市			村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。
		2週	人口、村落・都市			村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。
		3週	人口、村落・都市			村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。

		4週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		5週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		6週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		7週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		10週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		11週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		12週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		13週	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
		14週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
		15週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
		16週	期末試験答案返却時間	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0309		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	新井 修,中島 一					
到達目標						
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、事故の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		活動中、安全に留意して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。合わせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法	前期・後期の第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。					
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにしてください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	新体力テスト		正確な測定ができる。	
		12週	新体力テスト		正確な測定ができる。	
		13週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会(前期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	4thQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	

		12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
		13週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語総合 1
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	AFP World News Report 3					
担当教員	勝藤 和子,藤井 浩美					
到達目標						
1. 教材の社会的・科学的な話題のドキュメンタリー番組を視聴して、その内容についての質問に答えられる。 2. 1の教材のスク립トに目を読解し、その内容についての質問に答えられる。 3. 教材に用いられている科学技術の基本用語を含む重要語彙や重要文法事項を和文英訳に応用できる。 4. 3の重要語彙や重要文法事項を自分の意見を表明する簡単な英作文に応用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	教材の番組を視聴して、内容についての質問に英文でも答えられる。		教材の番組を視聴して、内容についての質問に、選択肢や日本語、単語レベルの英語で答えられる。		教材の番組を視聴して、内容についての質問に、選択肢や日本語、単語レベルの英語でも答えられない。	
到達目標2	教材の番組のスク립トを読んで、内容についての質問に英文で答えられる。		教材の番組のスク립トを読んで、質問に対して選択しや日本語、単語レベルの英語で答えられる。		教材の番組のスク립トを読んで、質問に対して選択しや日本語、単語レベルの英語でも答えられない。	
到達目標3	学習した重要語句や重要文法事項を教材の英文から離れた和文英訳に応用できる。		学習した重要語句や重要文法事項を教材の英文によく似た和文英訳に応用できる。		学習した重要語句や重要文法事項を教材の英文によく似た和文英訳にも応用できない。	
到達目標4	学習した重要語句や重要文法事項を使い、十分情報を補足しながら自分の意見を表明する英作文ができる。		学習した重要語句や重要文法事項を使い、1～2文で自分の意見を表明する英作文ができる。		学習した重要語句や重要文法事項を使って英文の形で自分の意見を表明することが全くできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	社会的、または科学的な話題を取り扱った英語視聴覚教材の音声・映像とそのスク립トを通して社会現象や科学技術の基本用語を含む英文の聴解力・読解力を高める。また登場した語彙や文法の重要事項を習得し、その知識を和文英訳や自分の意見を表明する簡単な英作文に応用できるようにする。					
授業の進め方・方法	予習では、Key Word Study, Listening Practice と Listening Practice 2（DVDを視聴して穴埋め）と Reading IIに取り組む。授業では、Key Word Study, Listening Practice, Listening Practice 2 をDVDを視聴しながら解答と解説を行う。教員がその日の Lessonの II. Readingの重要語句、構文を、スライドを視聴しながら説明する。復讐では、授業で取り扱った LessonのII.Reading について、Vocabulary Check, Comprehension Questions, Grammar Check に取り組む。 【授業時間30時間＋自学自習時間60時間】					
注意点	1. 授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーション時に説明する方法で、自学自習として予習復習を十分行うこと。 3. 教材のDVDを自分でも視聴できる環境を整えておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション Lesson 1 Hello Kitty	学習方法についての理解		
		2週	Lesson 2 Life with No Technology	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		3週	Lesson 3 College Major	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		4週	Lesson 4 Climate Change	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		5週	Lesson 5 Food Safety	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		6週	Lesson 6 Alternative Energy	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		7週	Lesson 7 Women and Education	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		8週	Review of Lesson 1-7	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
	4thQ	9週	【後期中間試験】			
		10週	Lesson 8 Smartphones	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		11週	Lesson 9 Wildlife and Development	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		12週	Lesson 10 Fight after Work	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		13週	Lesson 11 Bilingual Education	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		14週	Lesson 12 The Berlin Wall	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		
		15週	Review of Lesson 8-12	到達目標の1～4について、全Unitを題材に学習します。		

		16週	【学年末試験】					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3			
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3			
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3			
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3			
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3			
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3			
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3			
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3			
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3			
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3			
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3			
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3			
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3			
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3			
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3			
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3			
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3			
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3			
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	70	0	0	0	20	0	10	100
基礎的能力	70	0	0	0	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0036		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	【教科書】使用しません。適宜、プリント資料を配付します。 【参考書】高等学校倫理（第一学習社）					
担当教員	藤居 岳人					
到達目標						
1. 哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 議論用資料作成を通して、自分の主張を明確に文章にまとめることができる。 3. 議論を通して、周囲の意見を認めることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)		
到達目標 1		哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の詳細を踏まえて、説明できる。	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の概略を踏まえて、説明できる。	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の要点を踏まえて、説明できる。		
到達目標 2		論理に矛盾がなく、十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。	十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。	論理にやや不明瞭な点があるが、自分の主張をある程度明確に文章にまとめられる。		
到達目標 3		議論に主体的にかかわり、周囲の意見を尊重できる。	議論にかかわり、周囲の意見を尊重できる。	議論へのかかわりが不十分だが、ある程度周囲の意見を尊重して耳を傾けられる。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		自分自身がつまづきやすい疑問に対して、徹底的に考え抜くことが哲学における基本的態度です。「哲学する」とはどのようなことかについて、西洋と日本の思想を取り上げつつ、講義してゆきます。そして、哲学上の諸問題に関する講義と議論用資料作成・議論を通して、①それぞれの学生が「哲学する」ことができるように動機づけして、国際人として通用する柔軟な思考を養成します。②それぞれの学生が多様な価値観を認めつつ、自己の確立ができるようにします。				
授業の進め方・方法		基本的に講義形式ですが、年4回議論の時間を予定しています。 【授業時間 60 時間】				
注意点		議論のための資料として、適宜、小レポートを提出してもらう予定です。レポートはUSBメモリー・メール・manaba等で受けつけるので、その心づもりをしておいてください。議論は年4回を予定しています。また、講義で述べたことについて定期試験で確認する方針なので、「講義をしっかりと聴く」ことを心がけてほしいと思います。				
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	「哲学」とは？	「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。		
		2週	「哲学」とは？	「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。		
		3週	「哲学」「philosophia」の語	「哲学」の語の由来について、説明できる。		
		4週	「哲学」「philosophia」の語	「哲学」の語の由来について、説明できる。		
		5週	「哲学」「philosophia」の語	「philosophia」の語の由来について、説明できる。		
		6週	「哲学」「philosophia」の語	「philosophia」の語の由来について、説明できる。		
		7週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。		
		8週	西洋における哲学上の諸問題 1	デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
	2ndQ	9週	西洋における哲学上の諸問題 1	デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
		10週	西洋における哲学上の諸問題 2	ロック・ヒューム等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
		11週	西洋における哲学上の諸問題 2	ロック・ヒューム等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
		12週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
		13週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
		14週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。		
		15週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。		
		16週	【答案返却時間】			
後期	3rdQ	1週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。		
		2週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。		
		3週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。		
		4週	日本における哲学上の諸問題 2	言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。		
		5週	日本における哲学上の諸問題 2	言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。		

		6週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		7週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		8週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	4thQ	9週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
		10週	日本における哲学上の諸問題 3	実存主義の思想について、説明できる。
		11週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
		12週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
		13週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
		14週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
		15週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
		16週	【答案返却時間】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	2	前12,前13,前14
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前7,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的な人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前7,前15,後6,後15
			現代社会の 考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前7,前15,後6,後15

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	32	92
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	8	8

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	法学
科目基礎情報						
科目番号	0037		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	ガイドブック法学（嵯峨野書院）					
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル（可）	
到達目標1	法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の概要について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の要点について説明できる。	
到達目標2	憲法の基本的人権に関する判例の意義と課題を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について概要を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論の要点について説明できる。	
到達目標3	民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度の概要について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度の要点について説明できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。					
授業の進め方・方法	授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。					
注意点	日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。 参考書：法の世界へ[第7版](有斐閣)					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か		社会規範としての法の特徴、法の諸分類について説明できる。	
		2週	法とは何か		社会規範としての法の特徴、法の諸分類について説明できる。	
		3週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		4週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		5週	法の解釈		法の解釈技術について説明できる。	
		6週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		7週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		8週	裁判の構造		裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
	2ndQ	9週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		10週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		11週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		12週	憲法の基本的人権保障		基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		13週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		14週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		15週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		16週	期末試験答案返却			
後期	3rdQ	1週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		2週	民法		債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		3週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		4週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		5週	消費者保護法		特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		6週	製造物責任法		製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。	

		7週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		8週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
	4thQ	9週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		10週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		11週	刑法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		12週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		13週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		14週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		15週	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。
		16週	期末試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	20	0	0	80
専門的能力	10	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	なし/なし						
担当教員	新井 修,中島 一						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を实践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		練習やゲームに参加することができる。		
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。		
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。						
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。 授業時間 3 0 時間						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践		(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践		(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
	4thQ	9週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		10週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践		(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会(後期)		(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	100	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語の語彙・文法	
科目基礎情報							
科目番号	0039		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年		4		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	前期 Full gear for the TOEIC L&R Test (金星堂) 後期 The TOEIC Test Trainer Target 470 (センゲージラーニング) 通年: 英単語・熟語ダイアログ1200 (旺文社)						
担当教員	三宅 恵美,谷川 奈緒子						
到達目標							
1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2.授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	TOEICの出題傾向、出題形式を把握し、解答時間も考慮しながら適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、各パートの問題形式に対応できる。		TOEICの出題傾向を把握しておらず、各パートの問題形式に対応できない。		
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。		
到達目標3	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEIC実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、300～375点のTOEICスコアを達成する。また、ダイアログ式の単語・熟語集を用いて、単語や熟語を暗記し、適切に運用できるようになる。						
授業の進め方・方法	【授業時間60時間】						
注意点	300点未満の場合10点分が得られない→350点						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業の目的、自宅目標、学習方法を理解する。		
		2週	Unit 1		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		3週	Unit 2		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		4週	Unit 3		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		
		5週	Unit 4		各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。		

		6週	Unit 5	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		7週	Unit 6	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		8週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	2ndQ	9週	前期中間試験	
		10週	Unit 7	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		11週	Unit 8	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		12週	Unit 9	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		13週	Unit 10	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		14週	Unit 11	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		15週	Unit 12	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。

		16週	まとめと復習	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.招待・案内、医療・保健、文化・娯楽、買い物、運動、トラブル・申請の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.副詞、助動詞、接続し、仮定法、分子構文、前置語句など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
後期	3rdQ	1週	ミニTOEICテスト	4分の1量のミニTOEICテストを実際に行う事で、時間や分量的な感覚をつかむ
		2週	Unit 1	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		3週	Unit 2	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		4週	Unit 3	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		5週	Unit 4	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		6週	Unit 5	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		7週	Unit 6	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		8週	Unit 7	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
	4thQ	9週	後期中間試験	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。

		10週	Unit 8	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		11週	Unit 9	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		12週	Unit 10	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		13週	Unit 11	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		14週	Unit 12	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。 2.交通、情報案内、指示、説明、飲食、ビジネス、通信・コミュニケーション、社交の各場面におけるTOEIC頻出語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3.疑問代名詞、疑問副詞、否定疑問、進行形、完了形、受動態、不定詞、分子、動名詞など、TOEIC頻出の文法項目・構文を理解し、運用できるようになる。
		15週	Unit 13	各ユニットの問題演習を通して、 1.TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題景色に対応できるようになる。
		16週	ミニTOEICテスト	4分の1量のミニTOEICテストをもう一度行う事で、半年間の自分の英語力向上度を測り、翌年につなげる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前6,前7,前8,前10,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。 平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。 関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	10	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	応用化学	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養			対象学年	4		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材							
担当教員	松尾 俊寛,山田 洋平,園田 昭彦						
到達目標							
化学熱力学：熱力学と統計力学の初歩を学び、とくに化学で重要になる自由エネルギーの扱いに習熟する。 量子化学：量子化学の基礎であるシュレーディンガー方程式について学び、エネルギー固有値を求められることを目標とする。 機器分析：講義で取り扱う分析機器の装置構成や原理について、記述・説明できることを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)	
化学熱力学	種々の自由エネルギーがどのように定義される量が理解し、数式を用いて公式を説明できる。具体的な問題に対してこれらを用いた計算ができる。			ヘルムホルツ自由エネルギーとギブス自由エネルギーの定義を理解し、それらの違いについて説明できる。自由エネルギーの公式を用いて計算ができる。		ヘルムホルツ自由エネルギーとギブス自由エネルギーの定義を説明できる。	
量子化学	量子化の意味を理解し、さまざまなポテンシャルエネルギーでのエネルギー固有値と波動関数を求めることができる。			井戸型ポテンシャルのシュレーディンガー方程式の解を求めることができる。		1次元の箱の中の自由粒子シュレーディンガー方程式の解を求めることができる。	
機器分析	講義で扱った分析機器の原理と構造、得られる応答について詳細な記述・説明をすることができる。			講義で扱った分析機器の原理と構造、得られる応答について簡単に説明することができる。		講義で扱った分析機器のうちいくつかの装置について、その原理と構造について説明することができる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	広く化学一般の基礎から応用にかけて、担当各教員の専門と興味に基づき講義する。						
授業の進め方・方法	授業は3つのテーマについて5回ずつ行われる。各テーマごとにテストを行う。 【授業時間30時間】						
注意点	本講義は集中講義であるが、開講時期は担当教員により異なるので十分に注意すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱平衡状態		少数の変数で平衡状態が記述されることとそれらの間に成り立つ法則を学ぶ。		
		2週	等温変化と断熱変化		等温変化と断熱変化で成り立つ法則について理解する。また、熱力学関数としてのエントロピーの扱いに習熟する。		
		3週	ヘルムホルツの自由エネルギー		等温変化の際の最大仕事としてヘルムホルツ自由エネルギーが定義されることを理解し、いくつかの問題に適用する。		
		4週	ギブス自由エネルギー		ギブス自由エネルギーを定義し、その特性を説明できる。自由エネルギーを用いて具体的な問題を解くことができる。		
		5週	確認テスト				
		6週	古典物理学の破たん		古典物理学では説明できない物理現象を学習し、量子化学の必要性について理解する。		
		7週	古典的波動方程式		古典的波動方程式を復習し、シュレーディンガー方程式の導入を行う。		
		8週	シュレーディンガー方程式		シュレーディンガー方程式から解を求めて、粒子の波動関数とエネルギー固有値を求める。		
	2ndQ	9週	シュレーディンガー方程式		シュレーディンガー方程式から解を求めて、粒子の波動関数とエネルギー固有値を求める。		
		10週	確認テスト				
		11週	機器分析の概要		現在の科学技術と機器分析の関係について説明することができる。電磁波と物質の相互作用について説明することができる。		
		12週	吸光光度法と蛍光光度法		紫外・可視分光光度計および分光蛍光光度計の原理とその概要を説明することができる。また、それらのスペクトルをみて情報を読み取ることができる。		
		13週	原子吸光分析法と原子発光分析法		原子吸光光度計およびICP発光分光分析装置の原理とその概要を説明することができる。		
		14週	顕微鏡（光学顕微鏡、電子顕微鏡、走査プローブ顕微鏡）について		各種顕微鏡の構造の簡略図が書け、その原理を説明することができる。		
		15週	確認テスト				
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
	15週			
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合						
	試験	小スト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	30	30	30	10	0	100
基礎的能力	10	30	30	10	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	体育	
科目基礎情報							
科目番号	1195101			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし/なし						
担当教員	新井 修,中島 一						
到達目標							
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		練習やゲームに参加することができる。		
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。		
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自分の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。						
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。 授業時間 3 0 時間						
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	種目選択と実践			(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践			(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2ndQ	8週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		9週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	種目選択と実践			(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会(前期)			(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会(前期)			(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会(前期)			(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	100	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語総合 2
科目基礎情報						
科目番号	1195211		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	AFP World News Report 4, Makoto SHISHIDO, Seibido					
担当教員	谷中 俊裕,城本 春佳					
到達目標						
1. 教材(DVD及び英文エッセイ)で用いられている英語の語彙・語法を習得する。 2. 英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解できる。 3. 英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解できる。 4. 英語でのプレゼンテーションの形式を理解し作成できる。 5. 英語でのディベートの形式や表現を理解し、ディベートでの発話を作文できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安	
評価項目1	教材で扱われた語彙・語法を教材以外の類似の文脈でも理解できし、自らの英作文や発話に応用できる。		教材で扱われた語彙・語法を教材以外の類似の文脈の中で正しく理解できる。		教材で扱われた語彙・語法を教材中では正しく理解できる。	
評価項目2	5分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。		5分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、英文での質問に英語の短文で答えることができる。		5分程度の英語DVDを視聴し、その概要を正確に理解し、選択肢のある英語での質問に答えることができる。	
評価項目3	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。		400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、英文での質問に英語の短文で答えることができる。		400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、選択肢のある英語での質問に答えることができる。	
評価項目4	発表台本のノート欄を備え、聴衆の理解を助ける魅力的な画像を多く含む英語でのプレゼンテーションを作成できる。		発表台本のノート欄を備え、聴衆の理解を助ける最低限の画像を含む英語でのプレゼンテーションを作成できる。		発表台本のノート欄を備えた英語でのプレゼンテーションを作成できる。	
評価項目5	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解し、ディベート用の英文を作文でき、口頭でも発話できる。		英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解し、ディベート用の英文を作文できる。		英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	環境・健康・科学技術などの題材を取り上げた英語DVDを視聴しながら聴解演習し、併せて関連エッセイを読解演習する。その過程でポピュラーサイエンス分野特有の語彙・語法に慣れる。また、これらの語彙や語法も利用しながら、自ら調べた内容も補足して、学習分野に関連した英文のプレゼンテーションを作成する。その際には、ディベートを想定した対立する2つの見方を盛り込み、ディベート形式の思考訓練をする。授業時間30時間、自学自習時間60時間					
授業の進め方・方法	予習では、重要語句をチェックしながらDVDを視聴しておく。復習では、同じように重要語句をチェックしながら関連分野のエッセイを読んでおく。予習復習は自学自習ノートに記入しておく。授業中は、教科書の設問を利用しながら、復習として学習したエッセイの読解演習、予習しておいた新しい章の聴解演習を行い、語法のキーポイントを確認する。ディベートを想定した内容を盛り込んだ英文プレゼンテーションの作成は、グループ学習によって自学自習の一部として行う。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートやオンラインテストを実施する。					
注意点	1. 教科書付録のDVDを視聴できる環境を準備してください。 2. 授業には必ず辞書を持参してください。 3. 【重要】自学自習用にノートを1冊用意してください。ルーズリーフ及びリングノートは認めません。 4. 予習・復習に必要な語彙のヒントをmanabaに掲載します。プレゼンテーションの提出もmanabaを通して行うので、manabaにアクセスできる環境を準備してください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		シラバスの内容を理解する。	
		2週	L1 Emojis		L1 読解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		3週	L1 Emojis L2 Robots		L1 読解演習 L2 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		4週	L2 Robots L3 Shopping		L2 読解演習 L3 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		5週	L3 Shopping L4 Volunteering Overseas		L3 読解演習 L4 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		6週	L4 Volunteering Overseas L5 Pop vs Traditional Culture		L4 読解演習 L5 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		7週	L5 Pop vs Traditional Culture L6 Foreign Visitors		L5 読解演習 L6 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	L6 Foreign Visitors L7 English in Office		L6 読解演習 L7 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		10週	L7 English in Office L8 National Parks		L7 読解演習 L8 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
		11週	L8 National Parks L9 Old and New		L8 読解演習 L9 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	

	12週	L9 Old and New L10 The Paris Agreement	L9 読解演習 L10 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用
	13週	L10 The Paris Agreement L11 Social Inequality	L10 読解演習 L11 聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用
	14週	L11 Social Inequality 英語でのディベートの手法	L11 読解演習 語彙・語法の理解と作文への応用 英語でのディベートの手法を理解する
	15週	英語ディベート演習	英語でのディベートを実践する
	16週	前期末試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	50	20	0	0	20	10	100
基礎的能力	50	20	0	0	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	ドイツ語		
科目基礎情報								
科目番号	1195301			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養			対象学年	5			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	さあ、ドイツ語を話そう！（朝日出版社）							
担当教員	城本 春佳							
到達目標								
ドイツ語の発音規則、初級文法を学び、挨拶や自己紹介など、簡単な日常会話ができるようになる。 また、ドイツ語の学習を通して、異文化理解や外国語習得の有用性を理解する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	ドイツ語の発音規則に習熟し、始めて見る単語も正しく発音できる			ドイツ語の発音規則を習得し、既習の単語を正しく発音できる		ドイツ語のアルファベットを正しく読み、頻出単語を正しく発音できる		
到達目標2	既習の会話表現を応用して、ドイツ語での会話を創造することができる			既習の会話表現を用いて、ドイツ語で会話をすることができる		既習の会話表現のうち頻出の表現を用いて簡単なあいさつや自己紹介等ができる		
到達目標3	既習の文法知識を応用して、簡単なドイツ語の文章を読むことができる			既習の文法規則を理解し、教科書の文章が正確に読める		既習の文法知識を用いて、教科書の文章が概ね理解できる		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	ドイツ語の初級教科書を用いて、発音練習、聴き取り練習、文法演習、読解演習、会話練習を行う。							
授業の進め方・方法	毎回1課ずつのペースで進むので、次に習う課の新出単語の意味を予習してくる。 授業中には、発音・会話練習、文法演習を中心に行う。 毎回復習用課題を課す。							
注意点	授業中の発音・会話練習には積極的に取り組むこと。 毎回習う単語をしっかりと覚えていくこと。 復習用課題に真剣に取り組む、分からないところは質問すること。							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ドイツ語のアルファベット・発音規則 あいさつ			ドイツ語のアルファベットが読めるようになる 発音規則を理解し、初見の単語を正しく発音できる		
		2週	自己紹介 人称代名詞、動詞の人称変化(1)			自己紹介ができる		
		3週	好きなこと、好きな食べ物 不定詞句、動詞の人称変化(2)			趣味や好きな食べ物について話すことができる		
		4週	他己紹介 動詞の人称変化(3)、haben/ seinの変化、所有冠詞			他己紹介をすることができる		
		5週	物の名前 名詞の複数形、定/不定/否定冠詞、代名詞			物の名前や値段を尋ねることができる		
		6週	持ち物 冠詞の格変化			自分や相手の持ち物について話すことができる		
		7週	予定 前置詞、分離動詞			一週間の予定、一日の行動について話すことができる		
	8週	中間試験						
	4thQ	9週	中間試験の返却・解説・復習 ランデСКунデ			ドイツ及びドイツ周辺の国について説明することができる		
		10週	過去のこと 過去分詞、現在完了			過去の出来事について話すことができる		
		11週	できること、やりたいこと、やらねばならないこと 話法の助動詞			できること、やりたいこと、やらねばならないことについて話すことができる		
		12週	命令・依頼 動詞の命令形と語順			丁寧な依頼や命令ができる		
		13週	誕生日 3格と4格、日付の表現			自分や家族の誕生日について話すことができる		
		14週	天気 非人称es、前置詞句			特定の地域の気候について話すことができる		
		15週	学校の紹介			学校の名前、規模、課程、クラブ活動等について話すことができる		
		16週	期末テスト返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計		
総合評価割合	60	20	10	10	0	100		
基礎的能力	60	20	10	10	0	100		
専門的能力	0	0	0	0	0	0		

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	中国語	
科目基礎情報							
科目番号	1195302		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	1年生のコミュニケーション中国語 (白水社)						
担当教員	趙 彤						
到達目標							
1.中国の文化と生活に関する基礎的な知識を理解し、最新の中国事情を知る。 2.中国語の発音と基本な文法を理解し、基礎的な日常会話ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目1	中国語の社会事情、文化、生活に関することについて興味を持ち、理解できる。		中国の社会事情、文化、生活に関することについてある程度理解できる。		中国の社会事情、文化、生活に関することについて最低限理解できる。		
評価項目2	発音記号を見て、中国語を正しく発音できる。		発音記号を見て、中国語を発音できる。		発音記号を見て、ある程度中国語を発音できる。		
評価項目3	簡単な日常会話が流暢にできる。		簡単な日常会話ができる。		一部の簡単な日常会話ができる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中国の社会事情、生活・文化に関する基礎的な知識を理解するとともに、中国語の発音と表現に関する基礎知識、及び基礎的な会話を学習する。中国の最新の経済発展を授業の所々に紹介し、等身大の中国を理解する。						
授業の進め方・方法	授業は会話に関する学習と練習を基本とする。						
注意点	外国語の勉強が話すことが大事なので、授業中、積極的な態度で声を出すこと。ただし、私語は絶対にやめてください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスとオリエンテーション		授業の進め方や評価方法と基準などを説明する。中国に対する理解を深めるために社会事情や文化を紹介する。		
		2週	中国語の基礎：発音（母音）その1		発音記号と四声を使って、中国語の母音を発音できること。		
		3週	中国語の基礎：発音（母音）その2		発音記号と四声を使って、中国語の母音が発音できること。		
		4週	中国語の基礎：発音(子音) その1		発音記号と四声を使って、中国語の子音を発音できること。		
		5週	中国語の基礎：発音(子音) その2		発音記号と四声を使って、中国語の子音を発音できること。		
		6週	自己紹介		「～は～である」を使って自己紹介できること。		
		7週	これは何ですか		疑問文を使って会話ができること。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	これはいかがですか		指示代名詞と簡単な動詞を使えること。		
		10週	買い物		形容詞と量詞の使い方が理解できること。		
		11週	どこにありますか		数字、日付、時刻の表現を使えること。		
		12週	何がありますか		完了形の使い方を習得すること。		
		13週	ホテルにチェックイン		存在の表現を習得すること。		
		14週	何時にいきますか		時間の量の表現を習得すること。		
		15週	予備				
		16週	期末テスト				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本語の表現	
科目基礎情報							
科目番号		1195501		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		一般教養		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ（阿南高専）					
担当教員		坪井 泰士,錦織 浩文					
到達目標							
1. 社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を作成できる。（Ⅰ） 2. 他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる手法を説明できる。（Ⅱ）							
ルーブリック							
		理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベルの目安(可)	
到達目標1		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を即応的に作成できる。		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を適切に作成できる。		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を作成できる。	
到達目標2		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる効果的な手法を適切に説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる効果的な手法を説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる手法を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。					
授業の進め方・方法		LMSにより、講義VTR視聴（テキストを用いた予習・復習を含む）、レポート提出（教員による添削指導を含む）、チームプロジェクト等を実施する。 実授業は、それらの学習理解をふまえて討論、ファシリテーション、実技等により、振り返りを中心とする。 この科目は学修単位のため、事前・事後学修としてレポート（オンラインを含む）、授業VTR視聴（レポートとセット）を課す。 【授業時間30時間＋自学自習時間60時間】					
注意点		LMSの活用環境を整備しておくこと。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	阿南高専（もしくは社会）の課題の発見①（坪井）		阿南高専の課題（学習・研究環境、学生生活、地域連携・国際交流等）もしくは社会の課題を、調査やブレイン・ストーミング法により抽出できる。		
		2週	短歌・俳句（錦織）		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		3週	阿南高専（もしくは社会）の課題の発見②（坪井）		阿南高専の課題（学習・研究環境、学生生活、地域連携・国際交流等）もしくは社会の課題を、KJ法により整理・分類できる。		
		4週	短歌・俳句（錦織）		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		5週	阿南高専（もしくは社会）の課題の解決（坪井）		課題の確認をふまえ、妥当な解決策を具体的に説明できる。		
		6週	短歌・俳句（錦織）		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		7週	阿南高専（もしくは社会）の課題の解決②（坪井）		課題の確認をふまえ、妥当な解決策を具体的に説明できる。		
		8週	前期中間試験		学習のまとめ		
	2ndQ	9週	人間力①（坪井）		チームで求められる分野横断的能力について、求められる行動特性を説明できる。		
		10週	人間力②（坪井）		チームで求められる分野横断的能力について、求められる行動特性を獲得するための方法を説明できる。		
		11週	活動のアクティブ化手法（坪井）		ラポール、Show-See-Speak、ペーシングほか、活動をアクティブ化させる手法について説明し、実践できる。		
		12週	敬語（錦織）		敬語の基本を説明し、運用できる。		
		13週	電話・記録（錦織）		電話対応・記録・報告の基本を説明し、運用できる。		
		14週	通信文（錦織）		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		15週	通信文（錦織）		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		16週	前期末試験答案返却		学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	前3,前5,前7,前8
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	前3,前5,前7,前8
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3	前12,前13,前14,前15,前16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		3	前1,前5,前7

				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前5,前7
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前3,前5,前7,前8,前9,前10,前11
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前5,前7,前9,前10,前11
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	75	0	15	10	0	100
基礎的能力	75	0	5	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	10	10	0	20